

旧	新
<p data-bbox="439 865 1282 940"><b>用地調査等業務共通仕様書</b></p> <p data-bbox="706 1398 1015 1453"><u>平成 28 年 8 月</u></p> <p data-bbox="658 1625 1062 1680"><b>静岡県交通基盤部</b></p>	<p data-bbox="1703 865 2546 940"><b>用地調査等業務共通仕様書</b></p> <p data-bbox="1970 1398 2279 1453"><u>平成 29 年 8 月</u></p> <p data-bbox="1923 1625 2326 1680"><b>静岡県交通基盤部</b></p>

用地調査等業務共通仕様書

目 次

第1章 総 則		
第1条 趣旨等	.....	1
第2条 用語の定義	.....	1
第3条 基本的処理方針	.....	3
第4条 監督員	.....	3
第5条 主任技術者	.....	3
第6条 照査技術者	.....	4
第7条 業務従事者及び担当技術者	.....	4
第8条 再委託	.....	5
第9条 用地調査等業務の区分	.....	5
第2章 用地調査等業務の基本的処理方法		
第1節 用地調査等業務の実施手続		
第10条 施行上の義務及び心得	.....	8
第11条 業務の着手	.....	9
第12条 書類提出	.....	9
第13条 打合せ等	.....	9
第14条 現地踏査	.....	9
第15条 作業計画の策定	.....	10
第16条 監督員の指示等	.....	10
第17条 貸与品等	.....	11
第18条 立入り及び立会い	.....	11
第19条 障害物の伐除	.....	11
第20条 身分証明書の携帯	.....	11
第21条 算定資料	.....	12
第22条 監督員への進捗状況の報告	.....	12
第23条 成果物の一部提出等	.....	12
第24条 成果物	.....	12
<u>(加える。)</u>		
第25条 検 査	.....	13
第26条 修 補	.....	13
第27条 条件変更等	.....	13
第28条 精度監理対象業務の対応	.....	13

用地調査等業務共通仕様書

目 次

第1章 総 則		
第1条 趣旨等	.....	1
第2条 用語の定義	.....	1
第3条 基本的処理方針	.....	3
第4条 監督員	.....	3
第5条 主任技術者	.....	3
第6条 照査技術者	.....	4
第7条 業務従事者及び担当技術者	.....	4
第8条 再委託	.....	5
第9条 用地調査等業務の区分	.....	5
第2章 用地調査等業務の基本的処理方法		
第1節 用地調査等業務の実施手続		
第10条 施行上の義務及び心得	.....	8
第11条 業務の着手	.....	9
第12条 書類提出	.....	9
第13条 打合せ等	.....	9
第14条 現地踏査	.....	9
第15条 作業計画の策定	.....	10
第16条 監督員の指示等	.....	10
第17条 貸与品等	.....	11
第18条 立入り及び立会い	.....	11
第19条 障害物の伐除	.....	11
第20条 身分証明書の携帯	.....	11
第21条 算定資料	.....	12
第22条 監督員への進捗状況の報告	.....	12
第23条 成果物の一部提出等	.....	12
第24条 成果物	.....	12
<u>第24条の2 成果物の使用等</u>	<u>.....</u>	<u>12</u>
第25条 検 査	.....	13
第26条 修 補	.....	13
第27条 条件変更等	.....	13
第28条 精度監理対象業務の対応	.....	13

第29条	守秘義務	13
第30条	個人情報の取扱い	14
第31条	安全等の確保	14
	<u>(加える。)</u>	
第32条	行政情報流出防止策の強化	15
第33条	暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置	15
	<u>(加える。)</u>	
第2節	数量等の処理	
第34条	建物等の計測	15
第35条	図面等に表示する数値及び面積計算	16
第36条	計算数値の取扱い	16
第37条	補償額算定調書に計上する数値	16
第38条	補償額の端数処理	16
第3章	権利調査	
第1節	調査	
第39条	権利調査	17
第40条	地図の転写	17
第41条	土地の登記記録の調査	17
第42条	建物の登記記録の調査	18
第43条	権利者の確認調査	18
第44条	墓地管理者等の調査	19
第45条	土地利用履歴等の調査	19
第2節	調査書等の作成	
第46条	転写連続地図の作成	20
第47条	調査書の作成	20
第4章	用地測量	
第1節	境界確認	
第48条	公共用地境界の打合せ	20
第49条	資料の作成及び立会い	20
第50条	境界確定後の図書の作成	21
第51条	立会い準備	21
第52条	復元測量	21
第53条	境界立会いの画地及び範囲	21
第54条	境界立会い	21
第2節	境界測量	
第55条	用地測量の基準点	22

第29条	守秘義務	13
第30条	個人情報の取扱い	14
第31条	安全等の確保	14
	<u>第32条 低入札業務において講ずる措置</u>	<u>14</u>
第33条	行政情報流出防止策の強化	15
第34条	暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置	15
	<u>第35条 保険加入の義務</u>	<u>14</u>
第2節	数量等の処理	
第36条	建物等の計測	15
第37条	図面等に表示する数値及び面積計算	16
第38条	計算数値の取扱い	16
第39条	補償額算定調書に計上する数値	16
第40条	補償額の端数処理	16
第3章	権利調査	
第1節	調査	
第41条	権利調査	17
第42条	地図の転写	17
第43条	土地の登記記録の調査	17
第44条	建物の登記記録の調査	18
第45条	権利者の確認調査	18
第46条	墓地管理者等の調査	19
第47条	土地利用履歴等の調査	19
第2節	調査書等の作成	
第48条	転写連続地図の作成	20
第49条	調査書の作成	20
第4章	用地測量	
第1節	境界確認	
第50条	公共用地境界の打合せ	20
第51条	資料の作成及び立会い	20
第52条	境界確定後の図書の作成	21
第53条	立会い準備	21
第54条	復元測量	21
第55条	境界立会いの画地及び範囲	21
第56条	境界立会い	21
第2節	境界測量	
第57条	用地測量の基準点	22

第56条	境界測量	22
第57条	用地境界仮杭の設置	22
第3節	面積計算の範囲	
第58条	面積計算の範囲	23
第4節	用地実測図等の作成	
第59条	用地実測図等の作成	23
第60条	不動産調査報告書の作成	24
第5章 土地評価		
第61条	土地評価	24
第62条	土地評価の基準	24
第63条	現地踏査及び資料作成	24
第64条	標準地の選定及び標準地調査書の作成	25
第65条	標準地の評価調査書及び取得等の土地の評価調査書等の作成	25
第66条	残地等に関する損失の補償額の算定	26
第6章 建物等の調査		
第1節 調査		
第67条	建物等の調査	26
第68条	建物等の配置等	26
第69条	法令適合性の調査	26
第70条	木造建物	26
第71条	木造特殊建物	27
第72条	非木造建物	27
第73条	機械設備	27
第74条	生産設備	27
第75条	附帯工作物	27
第76条	庭園	28
第77条	墳墓	28
第78条	立竹木	28
第2節 調査書等の作成		
第79条	建物等の配置図の作成	30
第80条	法令に基づく施設改善	30
第81条	木造建物	30
第82条	木造特殊建物	30
第83条	非木造建物	31
第84条	機械設備	31
第85条	生産設備	31

第58条	境界測量	22
第59条	用地境界仮杭の設置	22
第3節	面積計算の範囲	
第60条	面積計算の範囲	23
第4節	用地実測図等の作成	
第61条	用地実測図等の作成	23
第62条	不動産調査報告書の作成	24
第5章 土地評価		
第63条	土地評価	24
第64条	土地評価の基準	24
第65条	現地踏査及び資料作成	24
第66条	標準地の選定及び標準地調査書の作成	25
第67条	標準地の評価調査書及び取得等の土地の評価調査書等の作成	25
第68条	残地等に関する損失の補償額の算定	26
第6章 建物等の調査		
第1節 調査		
第69条	建物等の調査	26
第70条	建物等の配置等	26
第71条	法令適合性の調査	26
第72条	木造建物	26
第73条	木造特殊建物	27
第74条	非木造建物	27
第75条	機械設備	27
第76条	生産設備	27
第77条	附帯工作物	27
第78条	庭園	28
第79条	墳墓	28
第80条	立竹木	28
第2節 調査書等の作成		
第81条	建物等の配置図の作成	30
第82条	法令に基づく施設改善	30
第83条	木造建物	30
第84条	木造特殊建物	30
第85条	非木造建物	31
第86条	機械設備	31
第87条	生産設備	31

第 86 条	附帯工作物	31
第 87 条	庭園	31
第 88 条	墳墓	31
第 89 条	立竹木	32
第 3 節 算 定		
第 90 条	移転先の検討	32
第 91 条	法令に基づく施設改善費用に係る運用益損失額の算定	32
第 92 条	木造建物	32
第 93 条	木造特殊建物	33
第 94 条	非木造建物	33
第 95 条	照応建物の詳細設計	33
第 96 条	機械設備	33
第 97 条	生産設備	33
第 98 条	附帯工作物	33
第 99 条	庭園	34
第 100 条	墳墓	34
第 101 条	立竹木	34
第 7 章 営業その他の調査		
第 1 節 調 査		
第 102 条	営業その他の調査	34
第 103 条	営業に関する調査	34
第 104 条	居住者等に関する調査	35
第 105 条	動産に関する調査	35
第 2 節 調査書の作成		
第 106 条	調査書の作成	36
第 3 節 算 定		
第 107 条	補償額の算定	36
第 8 章 消費税等調査		
第 108 条	消費税等に関する調査等	36
第 109 条	調査	37
第 110 条	補償の要否の判定等	37
第 9 章 予 備 調 査		
第 1 節 調 査		
第 111 条	予備調査	38
第 112 条	企業内容等の調査	38

第 88 条	附帯工作物	31
第 89 条	庭園	31
第 90 条	墳墓	31
第 91 条	立竹木	32
第 3 節 算 定		
第 92 条	移転先の検討	32
第 93 条	法令に基づく施設改善費用に係る運用益損失額の算定	32
第 94 条	木造建物	32
第 95 条	木造特殊建物	33
第 96 条	非木造建物	33
第 97 条	照応建物の詳細設計	33
第 98 条	機械設備	33
第 99 条	生産設備	33
第 100 条	附帯工作物	33
第 101 条	庭園	34
第 102 条	墳墓	34
第 103 条	立竹木	34
第 7 章 営業その他の調査		
第 1 節 調 査		
第 104 条	営業その他の調査	34
第 105 条	営業に関する調査	34
第 106 条	居住者等に関する調査	35
第 107 条	動産に関する調査	35
第 2 節 調査書の作成		
第 108 条	調査書の作成	36
第 3 節 算 定		
第 109 条	補償額の算定	36
第 8 章 消費税等調査		
第 110 条	消費税等に関する調査等	36
第 111 条	調査	37
第 112 条	補償の要否の判定等	37
第 9 章 予 備 調 査		
第 1 節 調 査		
第 113 条	予備調査	38
第 114 条	企業内容等の調査	38

第 113 条	敷地使用実態の調査	38
第 114 条	建物調査	39
第 115 条	機械設備等調査	39
第 2 節 調査書等の作成		
第 116 条	企業概要書	39
第 117 条	配置図	39
第 118 条	建物、機械設備等の図面作成	39
第 119 条	移転計画案の作成	39
第 3 節 算 定		
第 120 条	補償概算額の算定	40
第 10 章 移転工法案の検討		
第 1 節 調 査		
第 121 条	移転工法案の検討	40
第 122 条	企業内容等の調査	40
第 123 条	敷地使用実態の調査	41
第 2 節 調査書等の作成		
第 124 条	企業概要書	41
第 125 条	移転工法案の作成	41
第 126 条	補償額の比較	42
第 11 章 再算定業務		
第 127 条	再算定業務	42
第 128 条	再算定の方法	42
第 12 章 補 償 説 明		
第 129 条	補償説明	43
第 130 条	概況ヒアリング等	43
第 131 条	説明資料の作成等	43
第 132 条	権利者に対する説明	43
第 133 条	記録簿の作成	43
第 134 条	説明後の措置	43
第 13 章 事業認定申請図書等の作成		
第 135 条	事業認定申請図書等の作成	44
第 136 条	事業認定申請図書の作成	44
第 137 条	事業計画の説明	44
第 138 条	現地踏査	44

第 115 条	敷地使用実態の調査	38
第 116 条	建物調査	39
第 117 条	機械設備等調査	39
第 2 節 調査書等の作成		
第 118 条	企業概要書	39
第 119 条	配置図	39
第 120 条	建物、機械設備等の図面作成	39
第 121 条	移転計画案の作成	39
第 3 節 算 定		
第 122 条	補償概算額の算定	40
第 10 章 移転工法案の検討		
第 1 節 調 査		
第 123 条	移転工法案の検討	40
第 124 条	企業内容等の調査	40
第 125 条	敷地使用実態の調査	41
第 2 節 調査書等の作成		
第 126 条	企業概要書	41
第 127 条	移転工法案の作成	41
第 128 条	補償額の比較	42
第 11 章 再算定業務		
第 129 条	再算定業務	42
第 130 条	再算定の方法	42
第 12 章 補 償 説 明		
第 131 条	補償説明	43
第 132 条	概況ヒアリング等	43
第 133 条	説明資料の作成等	43
第 134 条	権利者に対する説明	43
第 135 条	記録簿の作成	43
第 136 条	説明後の措置	43
第 13 章 事業認定申請図書等の作成		
第 137 条	事業認定申請図書等の作成	44
第 138 条	事業認定申請図書の作成	44
第 139 条	事業計画の説明	44
第 140 条	現地踏査	44

第 139 条	起業地の範囲の検討	44
第 140 条	事業認定申請図書の作成方法	44
第 141 条	事前相談用資料の作成方法	45
第 142 条	事前相談用資料の提出	45
第 143 条	本申請図書の作成	45
第 144 条	裁決申請図書の作成	45
第 145 条	現地踏査	45
第 146 条	裁決申請図書の作成方法	45
第 147 条	明渡裁決申立図書の作成	45
第 148 条	現地踏査	45
第 149 条	明渡裁決申立図書の作成方法	45
第 14 章 地盤変動影響調査等		
第 1 節 調 査		
第 150 条	地盤変動影響調査	46
第 151 条	調査	46
第 152 条	費用負担の要否の検討	46
第 2 節 算 定		
第 153 条	費用負担額の算定	46
第 3 節 費用負担の説明		
第 154 条	費用負担の説明	46
第 155 条	概況ヒアリング等	47
第 156 条	説明資料の作成等	47
第 157 条	権利者に対する説明	47
第 158 条	記録簿の作成	47
第 159 条	説明後の措置	47
第 15 章 写真台帳の作成		
第 160 条	写真台帳の作成	48
第 16 章 土地調書及び物件調書の作成等		
第 161 条	土地調書等の作成	48
成果物一覧表		
様式第 1 号～第 27 号		
別記 1 不動産調査報告書記載要領		
別記 2 土地評価業務処理要領		

第 141 条	起業地の範囲の検討	44
第 142 条	事業認定申請図書の作成方法	44
第 143 条	事前相談用資料の作成方法	45
第 144 条	事前相談用資料の提出	45
第 145 条	本申請図書の作成	45
第 146 条	裁決申請図書の作成	45
第 147 条	現地踏査	45
第 148 条	裁決申請図書の作成方法	45
第 149 条	明渡裁決申立図書の作成	45
第 150 条	現地踏査	45
第 151 条	明渡裁決申立図書の作成方法	45
第 14 章 地盤変動影響調査等		
第 1 節 調 査		
第 152 条	地盤変動影響調査	46
第 153 条	調査	46
第 154 条	費用負担の要否の検討	46
第 2 節 算 定		
第 155 条	費用負担額の算定	46
第 3 節 費用負担の説明		
第 156 条	費用負担の説明	46
第 157 条	概況ヒアリング等	47
第 158 条	説明資料の作成等	47
第 159 条	権利者に対する説明	47
第 160 条	記録簿の作成	47
第 161 条	説明後の措置	47
第 15 章 写真台帳の作成		
第 162 条	写真台帳の作成	48
第 16 章 土地調書及び物件調書の作成等		
第 163 条	土地調書等の作成	48
成果物一覧表		
様式第 1 号～第 27 号		
別記 1 不動産調査報告書記載要領		
別記 2 土地評価業務処理要領		

別記3 工作物移転料積算基準  
別記4 営業調査算定要領  
別記5 事業認定申請図書作成要領

用地調査等業務共通仕様書

第1章 総 則

(趣旨等)

**第1条** この用地調査等業務共通仕様書（以下「仕様書」という。）は、静岡県交通基盤部（ただし、農地局を除く）の所掌する公共事業に必要な土地等の取得等に伴う測量、調査、補償金額の算定等業務（以下「用地調査等業務」という。）の適正な執行を期するため、静岡県業務委託契約約款（以下「約款」という。）第1条に定める仕様書として、用地調査等業務に係る必要な事項を定めるものとする。

2 業務の発注にあたり、当該業務の実施上この仕様書により難しいとき又はこの仕様書に定めのない事項については、特記仕様書を定めることができるものとし、適用にあたっては特記仕様書を優先するものとする。

(第2条から第7条まで、略)

(再委託)

**第8条** 約款第7条第1項に規定する「主たる部分」とは、用地調査等業務における総合的企画、業務遂行管理、調査・補償額算定等の手法の決定及び技術的判断等をいい、受注者は、これを再委託することはできない。

2 約款第7条第3項にただし書きに規定する「軽微な部分」は、コピー、ワープロ、印刷、製本、翻訳、計算処理（単純な電算処理に限る）、データ入力、資料の収集、単純な集計その他特記仕様書に定める事項とする。

3 受注者は、**第1項及び第2項**に規定する業務以外の再委託に当たっては、発注者の承諾を得なければならない。

(用地調査等業務の区分)

**第9条** この仕様書によって履行する用地調査等業務は、次の各号に定めるところにより行うものとする。

一 用地測量は、測量法（昭和24年法律第188号）第33条の規定に基づく静岡県公共測量作業規定により行うものとし、この仕様書においては、用地測量の実施に当たって必要となる細目を定めるものとする。

二 建物は、表1により木造建物〔Ⅰ〕、木造建物〔Ⅱ〕、木造建物〔Ⅲ〕、木造特殊建物、非木造建物〔Ⅰ〕

別記3 工作物移転料積算基準  
別記4 営業調査算定要領  
別記5 事業認定申請図書作成要領

用地調査等業務共通仕様書

第1章 総 則

(趣旨等)

**第1条** この用地調査等業務共通仕様書（以下「仕様書」という。）は、静岡県交通基盤部（ただし、農地局を除く）の所掌する公共事業に必要な土地等の取得等に伴う測量、調査、補償金額の算定等業務（以下「用地調査等業務」という。）の適正な執行を期するため、静岡県業務委託契約約款（以下「約款」という。）第1条に定める仕様書として、用地調査等業務に係る必要な事項を定めるものとする。

2 業務の発注にあたり、当該業務の実施上この仕様書により難しいとき又はこの仕様書に定めのない事項については、特記仕様書を定めることができるものとし、適用にあたっては特記仕様書を優先するものとする。

(第2条から第7条まで、略)

(再委託)

**第8条** 約款第7条第1項に規定する「主たる部分」とは、用地調査等業務における総合的企画、業務遂行管理、調査・補償額算定等の手法の決定及び技術的判断等をいい、受注者は、これを再委託することはできない。

2 約款第7条第3項にただし書きに規定する「軽微な部分」は、コピー、ワープロ、印刷、製本、翻訳、計算処理（単純な電算処理に限る）、データ入力、資料の収集、単純な集計その他特記仕様書に定める事項とする。

3 受注者は、**前2項**に規定する業務以外の再委託に当たっては、発注者の承諾を得なければならない。

(用地調査等業務の区分)

**第9条** この仕様書によって履行する用地調査等業務は、次の各号に定めるところにより行うものとする。

一 用地測量は、測量法（昭和24年法律第188号）第33条の規定に基づく静岡県公共測量作業規定により行うものとし、この仕様書においては、用地測量の実施に当たって必要となる細目を定めるものとする。

二 建物は、表1により木造建物〔Ⅰ〕、木造建物〔Ⅱ〕、木造建物〔Ⅲ〕、木造特殊建物、非木造建物〔Ⅰ〕



及び非木造建物〔Ⅱ〕に区分する。(第14章地盤変動影響調査等を実施する場合を除く。)

表1 建物区分

区 分	判 断 基 準
木造建物〔Ⅰ〕	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、軸組(在来)工法により建築されている専用住宅、共同住宅、店舗、事務所、工場、倉庫等の建物で主要な構造部の形状・材種、間取り等が一般的と判断される平家建又は2階建の建物
木造建物〔Ⅱ〕	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、軸組(在来)工法により建築されている劇場、映画館、公衆浴場、体育館等で主要な構造部の形状・材種、間取り等が一般的でなく、木造建物〔Ⅰ〕に含まれないと判断されるもの又は3階建の建物
木造建物〔Ⅲ〕	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、ツーバイフォー工法又はプレハブ工法等軸組(在来)工法以外の工法により建築された建物
木造特殊建物	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、軸組(在来)工法により建築されている神社、仏閣、教会堂、茶室、土蔵造等の建物で建築に特殊な技能を必要とするもの又は歴史的価値を有する建物
非木造建物〔Ⅰ〕	柱、梁等の主要な構造部が木材以外の材料により建築されている鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、コンクリートブロック造等の建物
非木造建物〔Ⅱ〕	石造、レンガ造及びプレハブ工法により建築されている鉄骨系又はコンクリート系の建物

(注) 建築設備及び建物附随工作物(テラス、ベランダ等建物と一体として施工され、建物の効用に寄与しているもの)は、建物の調査に含めて行うものとし、この場合の「建築設備」とは、建物と一体となって、建物の効用を全うするために設けられている、又は、建物の構造と密接不可分な関係にあるおおむね次に掲げるものをいう。

- (1) 電気設備(電灯設備、動力設備、受・変電設備(キュービクル式受変電設備を除く。)、ソーラーパネル等発電設備等)等
- (2) 通信・情報設備(電話設備、電気時計・放送設備、インターホン設備、警備設備、表示設備、テレビジョン共同受信設備)
- (3) ガス設備
- (4) 給・排水、衛生設備
- (5) 空調(冷暖房・換気)設備
- (6) 消火設備(火災報知器、スプリンクラー等)
- (7) 排煙設備
- (8) 汚物処理設備

及び非木造建物〔Ⅱ〕に区分する。(第14章地盤変動影響調査等を実施する場合を除く。)

表1 建物区分

区 分	判 断 基 準
木造建物〔Ⅰ〕	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、軸組(在来)工法により建築されている専用住宅、共同住宅、店舗、事務所、工場、倉庫等の建物で主要な構造部の形状・材種、間取り等が一般的と判断される平家建又は2階建の建物
木造建物〔Ⅱ〕	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、軸組(在来)工法により建築されている劇場、映画館、公衆浴場、体育館等で主要な構造部の形状・材種、間取り等が一般的でなく、木造建物〔Ⅰ〕に含まれないと判断されるもの又は3階建の建物
木造建物〔Ⅲ〕	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、ツーバイフォー工法又はプレハブ工法等軸組(在来)工法以外の工法により建築された建物
木造特殊建物	土台、柱、梁、小屋組等の主要な構造部に木材を使用し、軸組(在来)工法により建築されている神社、仏閣、教会堂、茶室、土蔵造等の建物で建築に特殊な技能を必要とするもの又は歴史的価値を有する建物
非木造建物〔Ⅰ〕	柱、梁等の主要な構造部が木材以外の材料により建築されている鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、コンクリートブロック造等の建物
非木造建物〔Ⅱ〕	石造、レンガ造及びプレハブ工法により建築されている鉄骨系又はコンクリート系の建物

(注) 建築設備及び建物附随工作物(テラス、ベランダ等建物と一体として施工され、建物の効用に寄与しているもの)は、建物の調査に含めて行うものとし、この場合の「建築設備」とは、建物と一体となって、建物の効用を全うするために設けられている、又は、建物の構造と密接不可分な関係にあるおおむね次に掲げるものをいう。

- (1) 電気設備(電灯設備、動力設備、受・変電設備(キュービクル式受変電設備を除く。)、ソーラーパネル等発電設備等)等
- (2) 通信・情報設備(電話設備、電気時計・放送設備、インターホン設備、警備設備、表示設備、テレビジョン共同受信設備)
- (3) ガス設備
- (4) 給・排水設備、衛生設備
- (5) 空調(冷暖房・換気)設備
- (6) 消火設備(火災報知器、スプリンクラー等)
- (7) 排煙設備
- (8) 汚物処理設備

(9) 煙突

(10) 運搬設備（昇降機、エスカレーター等。ただし工場、倉庫等の搬送設備を除く。）

(11) 避雷針

ただし、借家人等の建物所有者と異なる者の所有であり、かつ、容易に取り外しが行えるような場合は、この限りでない。

三 工作物は、表2により機械設備、生産設備、附帯工作物、庭園及び墳墓に区分する。

表2 工作物区分

区 分	判 断 基 準
機械設備	原動機等により製品等の製造又は加工等を行うもの、又は製造等に直接係わらない機械を主体とした排水処理施設等をいい、キュービクル式受変電設備、建築設備以外の動力設備、ガス設備、給・排水設備等の配管、配線及び機器類を含む。
生産設備	当該設備が製品等の製造に直接・間接的に係わっているもの又は営業を行う上で必要となる設備で次に例示するもの等をいう。ただし、建物として取扱うことが相当と認められるものを除く。 A 製品等の製造、育生、養殖等に直接係わるもの 園芸用フレーム、わさび畑、養殖池(場)(ポンプ配水設備を含む。)、牛、豚、鶏その他の家畜の飼育又は調教施設等 B 営業を目的に設置されているもの又は営業上必要なもの テニスコート、ゴルフ練習場等の施設(上家、ボール搬送機又はボール洗い機等を等を含む。)、自動車練習場のコース、遊園地(公共的な公園及び当該施設に附帯する駐車場を含む。)、釣り堀、貯木場等 C 製品等の製造、育生、養殖又は営業には直接的に係わらないが、間接的に必要となるもの 工場等の貯水池、浄水池(調整池及び沈澱池を含む。)、駐車場、運動場等の厚生施設等 D 上記AからCまでに例示するもの以外で次に例示するもの コンクリート等の煙突、給水塔、規模の大きな貯水槽又は浄水槽、鉄塔、送電設備、飼料用サイロ、用水堰、橋、火の見櫓、規模の大きなむろ、炭焼釜等
附帯工作物	表1の建物(注に掲げる設備、工作物を含む。)及び表2の他の区分に属するもの以外のすべてのものをいい、主として次に例示するものをいう。 門、囲障、コンクリート叩き、アスファルト舗装通路、敷石、敷地内排水設備、給・排水設備、ガス設備、物干台(柱)、池等
庭 園	立竹木、庭石、灯籠、築山、池等によって造形されており、総合的美的景観が形成されているものをいう。
墳 墓	墓地として都道府県知事の許可を受けた区域又はこれと同等と認めることが相

(9) 煙突

(10) 運搬設備（昇降機、エスカレーター等。ただし工場、倉庫等の搬送設備を除く。）

(11) 避雷針

ただし、借家人等の建物所有者と異なる者の所有であり、かつ、容易に取り外しが行えるような場合は、この限りでない。

三 工作物は、表2により機械設備、生産設備、附帯工作物、庭園及び墳墓に区分する。

表2 工作物区分

区 分	判 断 基 準
機械設備	原動機等により製品等の製造又は加工等を行うもの、又は製造等に直接係わらない機械を主体とした排水処理施設等をいい、キュービクル式受変電設備、建築設備以外の動力設備、ガス設備、給・排水設備等の配管、配線及び機器類を含む。
生産設備	当該設備が製品等の製造に直接・間接的に係わっているもの又は営業を行う上で必要となる設備で次に例示するもの等をいう。ただし、建物として取扱うことが相当と認められるものを除く。 A 製品等の製造、育生、養殖等に直接係わるもの 園芸用フレーム、わさび畑、養殖池(場)(ポンプ配水設備を含む。)、牛、豚、鶏その他の家畜の飼育又は調教施設等 B 営業を目的に設置されているもの又は営業上必要なもの テニスコート、ゴルフ練習場等の施設(上家、ボール搬送機又はボール洗い機等を等を含む。)、自動車練習場のコース、遊園地(公共的な公園及び当該施設に附帯する駐車場を含む。)、釣り堀、貯木場等 C 製品等の製造、育生、養殖又は営業には直接的に係わらないが、間接的に必要となるもの 工場等の貯水池、浄水池(調整池及び沈澱池を含む。)、駐車場、運動場等の厚生施設等 D 上記AからCまでに例示するもの以外で次に例示するもの コンクリート等の煙突、給水塔、規模の大きな貯水槽又は浄水槽、鉄塔、送電設備、飼料用サイロ、用水堰、橋、火の見櫓、規模の大きなむろ、炭焼釜等
附帯工作物	表1の建物(注に掲げる設備、工作物を含む。)及び表2の他の区分に属するもの以外のすべてのものをいい、主として次に例示するものをいう。 門、囲障、コンクリート叩き、アスファルト舗装通路、敷石、敷地内排水設備、給・排水設備、ガス設備、物干台(柱)、池等
庭 園	立竹木、庭石、灯籠、築山、池等によって造形されており、総合的美的景観が形成されているものをいう。
墳 墓	墓地として都道府県知事の許可を受けた区域又はこれと同等と認めることが相

当な区域内に存する死体を埋葬し、又は焼骨を埋蔵する施設をいい、これに附随する工作物及び立竹木を含む。

四 立竹木は、表3により庭木等、用材林立木、薪炭林立木、収穫樹、竹林、苗木（植木畑）及びその他の立木に区分する。

表3 立竹木区分

区 分	判 断 基 準
庭 木 等	<p>まつ、かや、まき、つばき等の立木で観賞上の価値又は防風、防雪その他の効用を有する住宅、店舗、工場等の敷地内に植栽されているもの（自生木を含み、庭園及び墳墓を構成するものを除く。）をいい、次により区分する。</p> <p>A 観 賞 樹 住宅、店舗、工場等の敷地内に植栽されており、観賞上の価値を有すると認められる立木であって、喬木（針葉樹及び広葉樹）、株物類、玉物類、特殊樹、生垣用木及びほていちく等の観賞用竹をいう。</p> <p>B 効 用 樹 防風、防雪その他の効用を目的として植栽されている立木で、主に屋敷回りに生育するものをいう。</p> <p>C 風 致 木 名所又は旧跡の風致保存を目的として植栽されている立木又は風致を保全するために敷地内に植栽されている立木をいう。</p> <p>D そ の 他 敷地内に植込まれた芝、地被類、草花等をいう。</p>
用材林立木	ひのき、すぎ等の立木で用材とすることを目的としているもの又は用材の効用を有していると認められるものをいう。
薪炭林立木	なら、くぬぎ等の立木で薪、炭等とすることを目的としているもの又はこれらの効用を有していると認められるものをいう。
収 穫 樹	りんご、みかん等の立木で果実等の収穫を目的としているものをいう。
竹 林	孟宗竹、ま竹等で竹材又は筍の収穫を目的としている竹林をいう。
苗木（植木畑）	営業用樹木で育苗管理している植木畑の苗木をいう。
その他の立木	上記の区分に属する立木以外の立木をいう。

当な区域内に存する死体を埋葬し、又は焼骨を埋蔵する施設をいい、これに附随する工作物及び立竹木を含む。

四 立竹木は、表3により庭木等、用材林立木、薪炭林立木、収穫樹、竹林、苗木（植木畑）及びその他の立木に区分する。

表3 立竹木区分

区 分	判 断 基 準
庭 木 等	<p>まつ、かや、まき、つばき等の立木で観賞上の価値又は防風、防雪その他の効用を有する住宅、店舗、工場等の敷地内に植栽されているもの（自生木を含み、庭園及び墳墓を構成するものを除く。）をいい、次により区分する。</p> <p>A 観 賞 樹 住宅、店舗、工場等の敷地内に植栽されており、観賞上の価値を有すると認められる立木であって、喬木（針葉樹及び広葉樹）、株物類、玉物類、特殊樹、生垣用木及びほていちく等の観賞用竹をいう。</p> <p>B 効 用 樹 防風、防雪その他の効用を目的として植栽されている立木で、主に屋敷回りに生育するものをいう。</p> <p>C 風 致 木 名所又は旧跡の風致保存を目的として植栽されている立木又は風致を保全するために敷地内に植栽されている立木をいう。</p> <p>D そ の 他 敷地内に植込まれた芝、地被類、草花等をいう。</p>
用材林立木	ひのき、すぎ等の立木で用材とすることを目的としているもの又は用材の効用を有していると認められるものをいう。
薪炭林立木	なら、くぬぎ等の立木で薪、炭等とすることを目的としているもの又はこれらの効用を有していると認められるものをいう。
収 穫 樹	りんご、みかん等の立木で果実等の収穫を目的としているものをいう。
竹 林	孟宗竹、ま竹等で竹材又は筍の収穫を目的としている竹林をいう。
苗木（植木畑）	営業用樹木で育苗管理している植木畑の苗木をいう。
その他の立木	上記の区分に属する立木以外の立木をいう。

## 第2章 用地調査等業務の基本的処理方法

### 第1節 用地調査等業務の実施手続

(第10条から第12条まで、略)

(打合せ等)

**第13条** 用地調査等業務を適正かつ円滑に実施するため、主任技術者と監督員は常に密接な連絡をとり、業務の方針及び条件等の疑義を正すものとし、その内容についてはその都度受注者が打ち合わせ記録簿(様式第28号)に記録し、相互に確認しなければならない。

なお、連絡は積極的に電子メール等を活用し、確認した内容については、必要に応じて打合せ記録簿を作成するものとする。

2 用地調査等業務着手地及び仕様書等で定める業務の区切りにおいて、**主任担当者**と監督員は打合せを行うものとし、その結果について受注者が打合せ記録簿に記録し相互に確認しなければならない。

3 **主任担当者**は、仕様書等に定めのない事項について疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議するものとする。

4 監督員及び受注者は、「ワンデーレスポンス」に努めるものとする。

なお、「ワンデーレスポンス」とは、問合せ等に対して、1日あるいは適切な期限までに対応することをいい、1日での対応が困難な場合などは、いつまでに対応するかを連絡するなど、速やかに何らかの対応をすることをいう。

(第14条、略)

(作業計画の策定)

**第15条** 受注者は、契約締結後14日(休日等を含む。)以内に仕様書等及び現地踏査の結果等を基に作業計画を策定し、監督員に提出しなければならない。

2 前項の作業計画書には、次の事項を記載するものとする。

なお、記載にあたって、実施方針又はその他には、**第30条、第31条及び第32条**に関する事項も含めるものとする。

- 一 業務概要
- 二 実施方針
- 三 業務工程
- 四 業務組織計画
- 五 打合せ計画
- 六 成果物の品質を確保するための計画
- 七 成果物の内容、部数
- 八 使用する主な図書及び基準

## 第2章 用地調査等業務の基本的処理方法

### 第1節 用地調査等業務の実施手続

(第10条から第12条まで、略)

(打合せ等)

**第13条** 用地調査等業務を適正かつ円滑に実施するため、主任技術者と監督員は常に密接な連絡をとり、業務の方針及び条件等の疑義を正すものとし、その内容についてはその都度受注者が打ち合わせ記録簿(様式第28号)に記録し、相互に確認しなければならない。

なお、連絡は積極的に電子メール等を活用し、確認した内容については、必要に応じて打合せ記録簿を作成するものとする。

2 用地調査等業務着手地及び仕様書等で定める業務の区切りにおいて、**業務代理人**と監督員は打合せを行うものとし、その結果について受注者が打合せ記録簿に記録し相互に確認しなければならない。

3 **業務代理人**は、仕様書等に定めのない事項について疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議するものとする。

4 監督員及び受注者は、「ワンデーレスポンス」に努めるものとする。

なお、「ワンデーレスポンス」とは、問合せ等に対して、1日あるいは適切な期限までに対応することをいい、1日での対応が困難な場合などは、いつまでに対応するかを連絡するなど、速やかに何らかの対応をすることをいう。

(第14条、略)

(作業計画の策定)

**第15条** 受注者は、契約締結後14日(休日等を含む。)以内に仕様書等及び現地踏査の結果等を基に作業計画を策定し、監督員に提出しなければならない。

2 前項の作業計画書には、次の事項を記載するものとする。

なお、記載にあたって、実施方針又はその他には、**第30条、第31条、第32条及び第35条**に関する事項も含めるものとする。

- 一 業務概要
- 二 実施方針
- 三 業務工程
- 四 業務組織計画
- 五 打合せ計画
- 六 成果物の品質を確保するための計画
- 七 成果物の内容、部数
- 八 使用する主な図書及び基準

九 連絡体制（緊急時を含む。）

十 支障する主な機器

十一 仕様書等において照査技術者による照査が定められている場合は、照査技術者及び照査計画

十二 その他

3 受注者は、作業計画書の重要な内容を変更する場合は、理由を明確にしたうえで、その都度監督職員に変更作業計画書を提出しなければならない。

4 受注者は、第1項の作業計画書に基づき業務が確実に実施できる執行体制を整備するものとする。

**（監督員の指示等）**

**第16条** 受注者は、用地調査等業務の実施に先立ち、主任担当者を立ち会わせてうえで、監督員から業務の実施について必要な指示を受けるものとする。

2 受注者は、用地調査等調査の実施にあたりこの仕様書、特記仕様書又は監督員の指示について疑義が生じたときは、監督員と協議するものとし、その結果については受注者が記録して相互に確認するものとする。

3 監督員の指示は、用地調査等業務の施行に関する指示票（様式第25号）（以下「指示票」という。）により行うものとする。

4 受注者は、用地調査等業務の遂行上必要な事項について承諾を受ける場合は、用地調査等業務の施行に関する承諾書（様式第26号）により行うものとする。

5 第2項の協議は、用地調査等業務の施行に関する協議書（様式第27号）により行うものとする。

（第17条から第22条まで、略）

**（成果物の一部提出等）**

**第23条** 受注者は、用地調査等業務の実施期間中であっても、監督員が成果物の一部の提出を求めたときは、これに応ずるものとする。

2 監督員は、前項で提出した成果物の一部について、その報告を求めることができる。受注者は、当該報告に主任技術者及び監督員の求めに応じて照査技術者を立ち会わせるものとする。

3 受注者は、用地調査等業務のうち精度監理を実施するものとされたものについては、監督員の指示により第19条に定める成果物の提出に先立って、仮提出をしなければならない。

**（成果物）**

**第24条** 受注者は、次の各号により成果物を作成するものとする。

一 用地調査等業務の区分及び内容ごとに整理し、編集する。

二 表紙には、契約件名、年度（又は履行期限の年月）、発注者及び受注者の名称を記載する。

三 目次及びページを付す。

四 容易に取りはずすことが可能な方法により編綴する。

2 本仕様書に様式の定めがないものは、監督員の指示による。

3 成果物の提出部数は、正1部及び副2部とするが、発注者の発議により受注者が監督員から指示を受

九 連絡体制（緊急時を含む。）

十 支障する主な機器

十一 仕様書等において照査技術者による照査が定められている場合は、照査技術者及び照査計画

十二 その他

3 受注者は、作業計画書の重要な内容を変更する場合は、理由を明確にしたうえで、その都度監督員に変更作業計画書を提出しなければならない。

4 受注者は、第1項の作業計画書に基づき業務が確実に実施できる執行体制を整備するものとする。

**（監督員の指示等）**

**第16条** 受注者は、用地調査等業務の実施に先立ち、業務代理人を立ち会わせてうえで、監督員から業務の実施について必要な指示を受けるものとする。

2 受注者は、用地調査等調査の実施にあたりこの仕様書、特記仕様書又は監督員の指示について疑義が生じたときは、監督員と協議するものとし、その結果については受注者が記録して相互に確認するものとする。

3 監督員の指示は、用地調査等業務の施行に関する指示票（様式第25号）（以下「指示票」という。）により行うものとする。

4 受注者は、用地調査等業務の遂行上必要な事項について承諾を受ける場合は、用地調査等業務の施行に関する承諾書（様式第26号）により行うものとする。

5 第2項の協議は、用地調査等業務の施行に関する協議書（様式第27号）により行うものとする。

（第17条から第22条まで、略）

**（成果物の一部提出等）**

**第23条** 受注者は、用地調査等業務の実施期間中であっても、監督員が成果物の一部の提出を求めたときは、これに応ずるものとする。

2 監督員は、前項で提出した成果物の一部について、その報告を求めることができる。受注者は、当該報告に主任技術者及び監督員の求めに応じて照査技術者を立ち会わせるものとする。

3 受注者は、用地調査等業務のうち精度監理を実施するものとされたものについては、監督員の指示により第24条に定める成果物の提出に先立って、仮提出をしなければならない。

**（成果物）**

**第24条** 受注者は、次の各号により成果物を作成するものとする。

一 用地調査等業務の区分及び内容ごとに整理し、編集する。

二 表紙には、契約件名、年度（又は履行期限の年月）、発注者及び受注者の名称を記載する。

三 目次及びページを付す。

四 容易に取りはずすことが可能な方法により編綴する。

2 本仕様書に様式の定めがないものは、監督員の指示による。

3 成果物の提出部数は、正1部及び副2部とするが、発注者の発議により受注者が監督員から指示を受

けた場合はこの限りではない。

4 受注者は、成果物の作成に当たり使用した調査表等の原簿を約款第 40 条第 2 項に定めるかし担保の期間保管し、監督員が提出を求めたときは、これらを提出するものとする。

(加える。)

(第 25 条、略)

**(修 補)**

**第 26 条** 受注者は、修補は速やかに行わなければならない。

2 **検査員**は、修補の必要があると認めた場合には、受注者に対して期限を定めて修補を指示することができるものとする。

3 **検査員**が修補の指示をした場合において、修補の完了の確認は検査員の指示に従うものとする。

4 検査員が指示した期間内に修補が完了しなかった場合には、発注者は、規約第 31 条第 2 項の規定に基づき検査の結果を受注者に通知するものとする。

(第 27 条から第 28 条まで略)

**(守秘義務)**

**第 29 条** 受注者は、約款第 1 条第 5 項の規定により、当該業務の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならないものとし、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

一 受注者は、当該業務の結果（業務実施の過程において得られた記録等を含む。）を第三者に閲覧させ、複写させ、又は譲渡してはならない。ただし、あらかじめ発注者の書面による承諾を得たときはこの限りではない。

二 受注者は、当該業務に関して発注者から貸与された情報その他知り得た情報を第 15 条に示す**業務計画書**の業務組織計画に記載される者以外には秘密としなければならない。

三 受注者は、当該業務に関して発注者から貸与された情報、その他知り得た情報を当該業務の終了後においても第三者に漏らしてならない。

四 当該業務で取り扱う情報は、アクセス制限及びパスワード管理等により適切に管理するとともに、

けた場合はこの限りではない。

4 受注者は、成果物の作成に当たり使用した調査表等の原簿を約款第 40 条第 2 項に定めるかし担保の期間保管し、監督員が提出を求めたときは、これらを提出するものとする。

(成果物の使用等)

第 24 条の 2 受注者は、約款第 6 条第 5 項の定めに従い、発注者の承諾を得て単独で又は他の者と共同で、成果物を発表することができる。

2 受注者は、著作権、特許権その他第三者の権利の対象となっている測量方法等の使用に関し、設計図書に明示がなく、その費用負担を発注者に求める場合には、第三者と補償交渉を行う前に発注者の承諾を受けなければならない。

3 受注者は、本業務の成果物（業務を行う上で得られた記録等を含む。以下同じ。）について適切な流出防止対策をとらなければならない。

4 受注者は、成果物の使用及び複製を申し出る場合には、別紙申請書を発注者に提出して承諾を得なければならない。

(第 25 条、略)

**(修 補)**

**第 26 条** 受注者は、修補は速やかに行わなければならない。

2 **発注者**は、修補の必要があると認めた場合には、受注者に対して期限を定めて修補を指示することができるものとする。

3 **発注者**が修補の指示をした場合において、修補の完了の確認は検査員の指示に従うものとする。

(削る。)

(第 27 条から第 28 条まで略)

**(守秘義務)**

**第 29 条** 受注者は、約款第 1 条第 5 項の規定により、当該業務の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならないものとし、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

一 受注者は、当該業務の結果（業務実施の過程において得られた記録等を含む。）を第三者に閲覧させ、複写させ、又は譲渡してはならない。ただし、あらかじめ発注者の書面による承諾を得たときはこの限りではない。

二 受注者は、当該業務に関して発注者から貸与された情報その他知り得た情報を第 15 条に示す**作業計画書**の業務組織計画に記載される者以外には秘密としなければならない。

三 受注者は、当該業務に関して発注者から貸与された情報、その他知り得た情報を当該業務の終了後においても第三者に漏らしてならない。

四 当該業務で取り扱う情報は、アクセス制限及びパスワード管理等により適切に管理するとともに、

当該業務のみに使用し、他の目的に使用してはならない。また、発注者の許可なく複製・転送等をしてはならない。

五 受注者は、当該業務完了時に、発注者から貸与された情報その他知り得た情報を発注者へ返却若しくは消去又は破棄を確実に行わなければならない。

六 受注者は、当該業務の実施過程で知り得た情報の外部への漏えい若しくは目的外使用が認められ又はそのおそれが有る場合には、これを速やかに発注者に報告するものとする。

#### (個人情報の取扱い)

**第 30 条** 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、用地調査等業務実施についての個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 58 号）等関係法令のほか、発注者が別途定める取扱いに基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又は毀損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

#### (加える。)

当該業務のみに使用し、他の目的に使用してはならない。また、発注者の許可なく複製・転送等をしてはならない。

五 受注者は、当該業務完了時に、発注者から貸与された情報その他知り得た情報を発注者へ返却若しくは消去又は破棄を確実に行わなければならない。

六 受注者は、当該業務の実施過程で知り得た情報の外部への漏えい若しくは目的外使用が認められ又はそのおそれが有る場合には、これを速やかに発注者に報告するものとする。

#### (個人情報の取扱い)

**第 30 条** 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、用地調査等業務実施についての個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）及び静岡県個人情報保護条例（平成 14 年 10 月 25 日静岡県条例第 158 号）、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 58 号）、行政手続における特定の個人を識別する番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）等関係法令に基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又は毀損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の内容のみだりに第三者に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

3 受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。また、当該利用目的の達成に必要な範囲内で、適正かつ公正な手段で個人情報を取得しなければならない。

4 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

5 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から提供を受けた個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

6 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための個人情報については自ら取り扱うものとし、第三者にその取り扱いを伴う事務を再委託してはならない。なお、再委託に関する発注者の指示又は承諾がある場合においては、個人情報の適切な管理を行う能力を有しない者に再委託することがないよう、受注者において必要な措置を講ずるものとする。

7 受注者は、個人情報の漏えい等の事案が発生し、又は発生するおそれがあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、適切な措置を講じなければならない。なお、発注者の指示があった場合はこれに従うものとする。また、契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

8 受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約の終了後又は解除後速やかに発注者に返却し、又は引き渡さなければならない。ただし、発注者が、廃棄又は消去など別の方法を指示したときは、当該指示に従うものとする。

9 受注者は、取扱う個人情報の秘匿性等その内容に応じて、この契約による事務に係る個人情報の管理の状況について、年 1 回以上発注者に報告するものとする。なお、個人情報の取扱いに係る業務が再委託される場合は、再委託される業務に係る個人情報の秘匿性等その内容に応じて、再委託先における個人情報の管理の状況について、受注者が年 1 回以上の定期的検査等により確認し、発注者に報告するものとする。

(安全等の確保)

第31条 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に際しては、用地調査等業務関係者だけでなく、付近住民、通行者、通行車両等の第三者の安全確保に努めなければならない。

2 受注者は屋外で行う用地調査等業務の実施に際しては、所轄警察署、道路管理者、鉄道事業者、河川管理者、労働基準監督署等の関係者及び関係機関と緊密な連携を取り、用地調査等業務の実施中の安全を確保しなければならない。

3 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たり、事故が発生しないように主任担当者等に安全教育の徹底を図り、指導、監督に努めなければならない。

4 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たっては安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じなければならない。

5 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たり、災害予防のため、次の各号に掲げる事項を厳守しなければならない。

- 一 受注者は、喫煙等の場所を指定し、指定場所以外での火気の使用を禁止しなければならない。
- 二 受注者は、ガソリン、塗料等の可燃物を使用する必要がある場合には、関係法令を遵守するとともに、関係官公署の指導に従い必要な措置を講じなければならない。

6 受注者は、爆破物等の危険物を使用する必要がある場合には、関係法令を遵守するとともに、関係官公署の指導に従い、爆発物の防止の措置を講じなければならない。

7 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たり、豪雨、豪雪、出水、地震、落雷等の自然災害に対して、常に被害を最小限に食い止めるための防災体制を確立しておかなければならない。

8 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施中に事故等が発生した場合は、直ちに監督員に報告するとともに、監督員が指示する様式により事故報告書を速やかに監督員に提出し、監督員から指示がある場合にはその指示に従わなければならない。

(加える。)

10 発注者は、受注者における個人情報の管理の状況について適時確認することができる。また、発注者は必要と認めるときは、受注者に対し個人情報の取り扱い状況について報告を求め、又は検査することができる。

11 受注者は、この契約による事務に係る個人情報の管理に関する責任者を特定するなど管理体制を定め、第15条で示す作業計画書に記載するものとする。

12 受注者は、従事者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに第三者に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

(安全等の確保)

第31条 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に際しては、用地調査等業務関係者だけでなく、付近住民、通行者、通行車両等の第三者の安全確保に努めなければならない。

2 受注者は屋外で行う用地調査等業務の実施に際しては、所轄警察署、道路管理者、鉄道事業者、河川管理者、労働基準監督署等の関係者及び関係機関と緊密な連携を取り、用地調査等業務の実施中の安全を確保しなければならない。

3 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たり、事故が発生しないように業務代理人等に安全教育の徹底を図り、指導、監督に努めなければならない。

4 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たっては安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じなければならない。

5 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たり、災害予防のため、次の各号に掲げる事項を厳守しなければならない。

- 一 受注者は、喫煙等の場所を指定し、指定場所以外での火気の使用を禁止しなければならない。
- 二 受注者は、ガソリン、塗料等の可燃物を使用する必要がある場合には、関係法令を遵守するとともに、関係官公署の指導に従い必要な措置を講じなければならない。

6 受注者は、爆破物等の危険物を使用する必要がある場合には、関係法令を遵守するとともに、関係官公署の指導に従い、爆発物の防止の措置を講じなければならない。

7 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施に当たり、豪雨、豪雪、出水、地震、落雷等の自然災害に対して、常に被害を最小限に食い止めるための防災体制を確立しておかなければならない。

8 受注者は、屋外で行う用地調査等業務の実施中に事故等が発生した場合は、直ちに監督員に報告するとともに、監督員が指示する様式により事故報告書を速やかに監督員に提出し、監督員から指示がある場合にはその指示に従わなければならない。

(低入札業務において講ずる措置)

第32条 地方自治法施行令第167条の10第1項に基づく、「静岡県建設関連業務委託に係る低入札価格調査要領（以下、本条において「要領」という。）」の規定による調査対象者が落札した場合は、受注者は次に掲げる措置を講じなければならない。

- 一 品質確保のための措置として、受注者自らによる照査等を実施した後、次に規定する第三者による



(行政情報流出防止対策の強化)

第 32 条 受注者は、用地調査等業務の履行に関する全ての行政情報について、適切な流出防止対策をとり、第 15 条で示す作業計画書の流出防止策を記載するものとする。

2 受注者は、用地調査等業務の履行に関する全ての行政情報の取扱いについては、関係法令を遵守するほか、発注者が別途定める取扱いを遵守しなければならない。

(暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置)

照査等（以下「第三者照査等」という。）を行うものとする。

なお、契約締結後速やかに第三者照査等の実施計画書を発注者に提出する。

また、契約対象業務の内容が複数の専門業務にわたる場合、発注者は第三者照査等の担当者に、次の要件等を付加することができる。

(1) 測量業務

第三者による主要な箇所の精度の確認を実施する。

(2) 補償関係コンサルタント業務

第三者による主要な箇所の内容確認を実施する。

二 第三者照査等を実施する者の要件は、次に掲げる全ての要件に該当するものであること。

(1) 静岡県建設関連業務委託入札参加資格者名簿（以下「資格者名簿」という。）に登載された入札参加資格者であること。

(2) 資格者名簿に登載されている第三者の業種内容が、契約対象業種の内容に相応していること。

(3) 静岡県から、静岡県工事請負契約等に係る入札参加停止等措置要綱に基づく入札参加停止措置を受けていないこと。

(4) 落札者と資本若しくは人事面において関連がないこと。

(5) 契約対象業務と同種の業務を静岡県から受注し、完了した実績があること（その完了の日が、入札が執行された日の属する年度内又はその前年度から起算して過去 5 年度以内である場合に限る。）。

(6) 当該入札に参加した者でないこと。

(7) 要領の別表 2 に定める資格を有する者が、第三者に属し、第三者照査等を実施する担当者であること。

(8) 入札が執行された日から起算して過去 1 年間に於いて、静岡県が発注した業務に関して、当該落札者の第三者照査等を請け負っていないこと。また、当該落札者に対して第三者照査等を請け負わせていないこと。

(9) 第三者照査等に関し、粗雑業務と認められた場合、入札参加停止措置その他不利益となる措置を受けることについて異存のない旨の確約書を発注機関の長あてに提出できる者であること。

三 第三者照査等の結果は、報告書として取りまとめ、別紙第三者照査等結果報告書により落札者、第三者が署名押印のうえ、業務完了までに発注者に提出する。

四 第三者照査等に要する費用はすべて落札者の負担とする。

2 その他必要な事項は、要領の規定による。

(行政情報流出防止対策の強化)

第 33 条 受注者は、用地調査等業務の履行に関する全ての行政情報について、適切な流出防止対策をとり、第 15 条で示す作業計画書の流出防止策を記載するものとする。

2 受注者は、用地調査等業務の履行に関する全ての行政情報の取扱いについては、関係法令を遵守するほか、発注者が別途定める取扱いを遵守しなければならない。

(暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置)

- 第 33 条** 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けた場合は、断固としてこれを拒否することとし、不当介入を受けた時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行わなければならない。なお、協力者が不当要求を受けたことを認知した場合も同様とする。
- 2 受注者は、前項により警察に通報又は捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を書面にて発注者に報告しなければならない。
- 3 **第 1 項及び第 2 項**の行為を受注者が怠ったことが確認された場合には、発注者は受注者に対し、指名停止等の措置を講じる場合がある。
- 4 暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議しなければならない。

(加える。)

## 第 2 節 数量等の処理

### (建物等の計測)

- 第 34 条** 建物及び工作物の調査において、長さ、高さ等の計測単位は、メートルを基本とし、小数点以下第 2 位（小数点以下第 3 位四捨五入）とする。ただし、排水管等の長さ等で小数点以下第 2 位の計測が困難なものは、この限りでない。
- 2 建物及び工作物の面積に係る計測は、原則として、柱又は壁の中心間で行うこととする。
- 3 建物等の構造材、仕上げ材等の厚さ、幅等の計測は、原則として、ミリメートルを単位とする。
- 4 立竹木の計測単位は、次の各号によるものとする。
- 一 根本周囲、幹廻り、胸高直径は、センチメートル（小数点以下第 1 位四捨五入）とする。
  - 二 枝幅、樹高は、メートルとし、小数点以下第 1 位（小数点以下第 2 位四捨五入）とする。ただし、庭木等のうち株物類、玉物類、特殊樹及び生垣用木については、センチメートル（小数点以下第 1 位四捨五入）とする。
- 5 芝、地被類、草花等が植込まれている区域の計測単位は、メートルとし、小数点以下第 1 位（小数点以下第 2 位四捨五入）とする。

### (図面等に表示する数値及び面積計算)

- 第 35 条** 建物等の調査図面に表示する数値は、前条の計測値を基にミリメートル単位で記入するものとする。
- 2 建物等の面積計算は、前項で記入した数値をメートル単位により小数点以下第 4 位まで算出し、小数

- 第 34 条** 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けた場合は、断固としてこれを拒否することとし、不当介入を受けた時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行わなければならない。なお、協力者が不当要求を受けたことを認知した場合も同様とする。
- 2 受注者は、前項により警察に通報又は捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を書面にて発注者に報告しなければならない。
- 3 **前 2 項**の行為を受注者が怠ったことが確認された場合には、発注者は受注者に対し、指名停止等の措置を講じる場合がある。
- 4 暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議しなければならない。

(保険加入の義務)

**第 35 条** 受注者は、雇用保険法（昭和 49 年法律第 116 号）、労働者災害補償保険法（昭和 22 年法律第 50 号）、健康保険法（大正 11 年法律第 70 号）及び厚生年金保険法（昭和 29 年法律第 115 号）の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。

## 第 2 節 数量等の処理

### (建物等の計測)

- 第 36 条** 建物及び工作物の調査において、長さ、高さ等の計測単位は、メートルを基本とし、小数点以下第 2 位（小数点以下第 3 位四捨五入）とする。ただし、排水管等の長さ等で小数点以下第 2 位の計測が困難なものは、この限りでない。
- 2 建物及び工作物の面積に係る計測は、原則として、柱又は壁の中心間で行うこととする。
- 3 建物等の構造材、仕上げ材等の厚さ、幅等の計測は、原則として、ミリメートルを単位とする。
- 4 立竹木の計測単位は、次の各号によるものとする。
- 一 根本周囲、幹廻り、胸高直径は、センチメートル（小数点以下第 1 位四捨五入）とする。
  - 二 枝幅、樹高は、メートルとし、小数点以下第 1 位（小数点以下第 2 位四捨五入）とする。ただし、庭木等のうち株物類、玉物類、特殊樹及び生垣用木については、センチメートル（小数点以下第 1 位四捨五入）とする。
- 5 芝、地被類、草花等が植込まれている区域の計測単位は、メートルとし、小数点以下第 1 位（小数点以下第 2 位四捨五入）とする。

### (図面等に表示する数値及び面積計算)

- 第 37 条** 建物等の調査図面に表示する数値は、前条の計測値を基にミリメートル単位で記入するものとする。
- 2 **前条第 2 項により計測した**建物等の面積計算は、前項で記入した数値をメートル単位により小数点以

点以下第2位（小数点以下第3位切捨て）までの数値を求めるものとする。

- 3 建物の延べ床面積は、前項で算出した各階別的小数点以下第2位までの数値を合計した数値とするものとする。
- 4 1棟の建物が2以上の用途に使用されているときは、用途別の面積を前2項の定めるところにより算出するものとする。

**（計算数値の取扱い）**

**第36条** 建物等の補償額算定に必要となる構造材、仕上げ材等の数量算出の単位は、通常使用されている例によるものとする。ただし、算出する数量が少量であり、通常使用している単位で表示することが困難な場合は、別途の単位を使用することができるものとする。

- 2 構造材、仕上げ材等の数量計算は、原則として、それぞれの単位を基準として次の方法により行うものとする。
  - 一 数量計算の集計は、補償額算定調書に計上する項目ごとに行う。
  - 二 前項の使用単位で直接算出できるものは、その種目ごとの計算過程において、小数点以下第3位（小数点以下第4位切捨て）まで求める。
  - 三 前項の使用単位で直接算出することが困難なものは、種目ごとの長さ等の集計を行った後、使用単位数に換算する。この場合における長さ等の集計は、原則として小数点以下第2位をもって行うものとし、数量換算結果は、小数点以下第3位まで算出する。

**（補償額算定調書に計上する数値）**

**第37条** 補償額算定調書に計上する数値（価格に対応する数量）は、次の各号によるもののほか、第34条による計測値を基に算出した数値とする。

- 一 建物の延べ床面積は、第35条第3項で算出した数値とする。
- 二 構造材、仕上げ材その他の数量は、前条第2項第2号及び第3号で算出したものを小数点以下第2位（小数点以下第3位四捨五入）で計上する。

**（補償額の端数処理）**

**第38条** 建物等の補償額の算定を行う場合の資材単価等の端数処理は、原則として、次の各号に掲げる場合を除き、1円未満切り捨てとする。

- 一 補償単価及び資材単価等は、次による。

イ 100円未満のとき	1円未満切り捨て
ロ 100円以上10,000円未満のとき	10円未満切り捨て
ハ 10,000円以上のとき	100円未満切り捨て
- 二 共通仮設費及び諸経費等にあつては、100円未満を切り捨てた金額を計上する。この場合において、その額が100円未満のときは、1円未満切り捨てとする。

下第4位まで算出し、小数点以下第2位（小数点以下第3位切捨て）までの数値を求めるものとする。

- 3 建物の延べ床面積は、前項で算出した各階別的小数点以下第2位までの数値を合計した数値とするものとする。
- 4 1棟の建物が2以上の用途に使用されているときは、用途別の面積を前2項の定めるところにより算出するものとする。

**（計算数値の取扱い）**

**第38条** 建物等の補償額算定に必要となる構造材、仕上げ材等の数量算出の単位は、通常使用されている例によるものとする。ただし、算出する数量が少量であり、通常使用している単位で表示することが困難な場合は、別途の単位を使用することができるものとする。

- 2 構造材、仕上げ材等の数量計算は、原則として、それぞれの単位を基準として次の方法により行うものとする。
  - 一 数量計算の集計は、補償額算定調書に計上する項目ごとに行う。
  - 二 前項の使用単位で直接算出できるものは、その種目ごとの計算過程において、小数点以下第3位（小数点以下第4位切捨て）まで求める。
  - 三 前項の使用単位で直接算出することが困難なものは、種目ごとの長さ等の集計を行った後、使用単位数に換算する。この場合における長さ等の集計は、原則として小数点以下第2位をもって行うものとし、数量換算結果は、小数点以下第3位まで算出する。

**（補償額算定調書に計上する数値）**

**第39条** 補償額算定調書に計上する数値（価格に対応する数量）は、次の各号によるもののほか、第36条による計測値を基に算出した数値とする。

- 一 建物の延べ床面積は、第37条第3項で算出した数値とする。
- 二 構造材、仕上げ材その他の数量は、前条第2項第2号及び第3号で算出したものを小数点以下第2位（小数点以下第3位四捨五入）で計上する。

**（補償額の端数処理）**

**第40条** 建物等の補償額の算定を行う場合の資材単価等の端数処理は、原則として、次の各号に掲げる場合を除き、1円未満切り捨てとする。

- 一 補償単価及び資材単価等は、次による。

イ 100円未満のとき	1円未満切り捨て
ロ 100円以上10,000円未満のとき	10円未満切り捨て
ハ 10,000円以上のとき	100円未満切り捨て
- 二 共通仮設費及び諸経費等にあつては、100円未満を切り捨てた金額を計上する。この場合において、その額が100円未満のときは、1円未満切り捨てとする。

## 第3章 権利調査

### 第1節 調査

#### (権利調査)

第39条 権利調査とは、登記事項証明書、戸籍簿等の簿冊の謄本等の收受又は居住者等からの聴き取り等の方法により土地、建物等の現在の権利者（又はその法定代理人）等の氏名又は名称（以下「氏名等」という。）及び住所又は所在地（以下「住所等」という。）等に関し調査することをいう。

#### (地図の転写)

第40条 地図の転写は、調査区域について管轄登記所に備付けてある地図（不動産登記法（平成16年法律第123号）第14条第1項又は同条第4項の規定により管轄登記所に備える地図又は地図に準ずる図面をいう。以下同じ。）を次の各号に定める方法により行うものとする。

- 一 転写した地図には、地図の着色に従って着色する。
- 二 転写した地図には、方位、縮尺、市町村名、大字名、字名（隣接字名を含む。）及び地番を記載する。
- 三 転写した地図には、管轄登記所名、転写年月日及び転写を行った者の氏名を記入する。

2 前項により作成した地図から監督員が指示する範囲の土地に係わる次の各号に掲げる図面の転写を行うものとする。

- 一 法務局に提出済みの地籍測量図
- 二 公共団体に備える図面
- 三 その他参考となる図面

#### (土地の登記記録の調査)

第41条 土地の登記記録の調査は、前条で転写した地図から監督員が指示する範囲の土地に係わる次の各号に掲げる登記事項について行うものとする。

- 一 土地の所在及び地番並びに当該地番に係る最終支号
- 二 地目及び地積
- 三 登記名義人の氏名等及び住所等
- 四 共有土地については、共有者の持分
- 五 土地に関する所有権以外の権利の登記があるときは、登記名義人の氏名等及び住所等、権利の種類、順位番号及び内容並びに権利の始期及び存続期間
- 六 仮登記等があるときは、その内容
- 七 その他必要と認める事項

#### (建物の登記記録の調査)

## 第3章 権利調査

### 第1節 調査

#### (権利調査)

第41条 権利調査とは、登記事項証明書、戸籍簿等の簿冊の謄本等の收受又は居住者等からの聴き取り等の方法により土地、建物等の現在の権利者（又はその法定代理人）等の氏名又は名称（以下「氏名等」という。）及び住所又は所在地（以下「住所等」という。）等に関し調査することをいう。

#### (地図の転写)

第42条 地図の転写は、調査区域について管轄登記所に備付けてある地図（不動産登記法（平成16年法律第123号）第14条第1項又は同条第4項の規定により管轄登記所に備える地図又は地図に準ずる図面をいう。以下同じ。）を次の各号に定める方法により行うものとする。

- 一 転写した地図には、地図の着色に従って着色する。
- 二 転写した地図には、方位、縮尺、市町村名、大字名、字名（隣接字名を含む。）及び地番を記載する。
- 三 転写した地図には、管轄登記所名、転写年月日及び転写を行った者の氏名を記入する。

2 前項により作成した地図から監督員が指示する範囲の土地に係わる次の各号に掲げる図面の転写を行うものとする。

- 一 法務局に提出済みの地籍測量図
- 二 公共団体に備える図面
- 三 その他参考となる図面

#### (土地の登記記録の調査)

第43条 土地の登記記録の調査は、前条で転写した地図から監督員が指示する範囲の土地に係わる次の各号に掲げる登記事項について行うものとする。

- 一 土地の所在及び地番並びに当該地番に係る最終支号
- 二 地目及び地積
- 三 登記名義人の氏名等及び住所等
- 四 共有土地については、共有者の持分
- 五 土地に関する所有権以外の権利の登記があるときは、登記名義人の氏名等及び住所等、権利の種類、順位番号及び内容並びに権利の始期及び存続期間
- 六 仮登記等があるときは、その内容
- 七 その他必要と認める事項

#### (建物の登記記録の調査)

**第 42 条** 建物の登記記録の調査は、第 40 条で転写した地図から監督員が指示する範囲に存する建物に係わる次の各号に掲げる登記事項について行うものとする。

- 一 建物の所在地、家屋番号、種類、構造及び床面積並びに登記原因及びその日付け
- 二 登記名義人の氏名等及び住所等
- 三 共有建物については、共有者の持分
- 四 建物に関する所有権以外の権利の登記があるときは、登記名義人の氏名等及び住所等、権利の種類及び内容並びに権利の始期及び存続期間
- 五 仮登記等があるときは、その内容
- 六 その他必要と認める事項

**(権利者の確認調査)**

**第 43 条** 権利者の確認調査は、前 2 条に規定する調査が完了した後、実地調査及び次の各号に定める書類等により行うものとする。

- 一 戸籍簿、除籍簿、住民票又は戸籍の附票等
  - 二 商業登記簿、法人登記簿等
- 2 権利者が法人以外であるときの調査事項は、次の各号に掲げるものとする。
- 一 権利者の氏名、住所及び生年月日
  - 二 権利者が登記名義人の相続人であるときは、相続関係、相続の経過を明らかにした相続系統図を作成する。
  - 三 権利者が未成年者等であるときは、その法定代理人等の氏名及び住所
  - 四 権利者が不在者であるときは、その財産管理人の氏名及び住所
- 3 権利者が法人であるときの調査事項は、次の各号に掲げるものとする。
- 一 法人の名称及び主たる事務所の所在地
  - 二 法人を代表する者の氏名及び住所
  - 三 法人が破産法（平成 16 年法律第 75 号）による破産宣告を受けているとき等の場合にあつては、破産管財人等の氏名及び住所
- 4 前条の建物の登記記録の調査により未登記の建物が存在することが明らかになった場合には、当該建物所有者の氏名及び住所等について、居住者等からの聴き取りを基に調査を行うものとする。

**(墓地管理者等の調査)**

**第 44 条** 墓地管理者等の調査は、調査区域内に存する墓地又は墳墓の権利関係について、次の各号により行うものとする。

- 一 墓地の所有者及び管理者（以下「墓地管理者」という。）の調査  
墓地管理者の調査は、土地の登記記録の調査及び市町村吏員、集落の代表者等、寺院の代表役員等からの聴き取りによる。  
この場合において、墓地管理者が宗教法人のときは、宗教法人登記簿等により次に掲げる事項を調査する。  
(1) 名称

**第 44 条** 建物の登記記録の調査は、第 40 条で転写した地図から監督員が指示する範囲に存する建物に係わる次の各号に掲げる登記事項について行うものとする。

- 一 建物の所在地、家屋番号、種類、構造及び床面積並びに登記原因及びその日付け
- 二 登記名義人の氏名等及び住所等
- 三 共有建物については、共有者の持分
- 四 建物に関する所有権以外の権利の登記があるときは、登記名義人の氏名等及び住所等、権利の種類及び内容並びに権利の始期及び存続期間
- 五 仮登記等があるときは、その内容
- 六 その他必要と認める事項

**(権利者の確認調査)**

**第 45 条** 権利者の確認調査は、前 2 条に規定する調査が完了した後、実地調査及び次の各号に定める書類等により行うものとする。

- 一 戸籍簿、除籍簿、住民票又は戸籍の附票等
  - 二 商業登記簿、法人登記簿等
- 2 権利者が法人以外であるときの調査事項は、次の各号に掲げるものとする。
- 一 権利者の氏名、住所及び生年月日
  - 二 権利者が登記名義人の相続人であるときは、相続関係、相続の経過を明らかにした相続系統図を作成する。
  - 三 権利者が未成年者等であるときは、その法定代理人等の氏名及び住所
  - 四 権利者が不在者であるときは、その財産管理人の氏名及び住所
- 3 権利者が法人であるときの調査事項は、次の各号に掲げるものとする。
- 一 法人の名称及び主たる事務所の所在地
  - 二 法人を代表する者の氏名及び住所
  - 三 法人が破産法（平成 16 年法律第 75 号）による破産宣告を受けているとき等の場合にあつては、破産管財人等の氏名及び住所
- 4 前条の建物の登記記録の調査により未登記の建物が存在することが明らかになった場合には、当該建物所有者の氏名及び住所等について、居住者等からの聴き取りを基に調査を行うものとする。

**(墓地管理者等の調査)**

**第 46 条** 墓地管理者等の調査は、調査区域内に存する墓地又は墳墓の権利関係について、次の各号により行うものとする。

- 一 墓地の所有者及び管理者（以下「墓地管理者」という。）の調査  
墓地管理者の調査は、土地の登記記録の調査及び市町村吏員、集落の代表者等、寺院の代表役員等からの聴き取りによる。  
この場合において、墓地管理者が宗教法人のときは、宗教法人登記簿等により次に掲げる事項を調査する。  
(1) 名称

- (2) 事務所の所在地
- (3) 包括団体の名称及び宗教法人・非宗教法人の別
- (4) 代表権を有する者の氏名、住所及び資格
- (5) 財産処分等に関する規則がある場合は、その事項
- (6) 永代使用料（入壇志納金）に関する事項
- (7) その他必要と認める事項

## 二 墓地使用（祭祀）者の調査

- (1) 墓地使用者の画地ごとに、墓地管理者等から墓地の使用（祭祀）者の氏名、住所等について聴取する。この場合において、墓地の使用者から維持・管理の委任を受けている者がいるとき又は墓地使用名義人と現実の使用者（祭祀を主宰する者）が異なっている場合には、その原因と受任者、承継人等の氏名及び住所を調査する。
- (2) それぞれの墓地の画地については、前号の調査を基に墓地管理者と協議し、墓地の使用（祭祀）者を確認する。

## 三 墓地使用（祭祀）者単位の霊名簿（過去帳）の調査

前2号で確定した墓地使用（祭祀）者（未確認のものを含む。）を単位として、墓地管理者が管理する霊名簿（過去帳）及び墓地使用（祭祀）者から次に掲げる事項を聴取する。

- (1) 法名（戒名）
- (2) 俗名、性別及び享年
- (3) 死亡年月日
- (4) 火葬、土葬の区分
- (5) 墓地使用者単位の霊数
- (6) その他必要と認める事項

### （土地利用履歴等の調査）

**第45条** 土地利用履歴等の調査は、取得又は使用の対象となる土地に係る土壤汚染状況調査の実施の要否を判定するため、土壤汚染に関する土地利用履歴等調査要領（平成24年3月30日付け国土用第53号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知（以下「土地利用履歴等調査要領」という。））により行うものとする。

## 第2節 調査書等の作成

### （転写連続地図の作成）

**第46条** 転写した地図は、各葉を複写して連続させた地図（この地図を「転写連続図」という。以下同じ。）を作成し、次の事項を記入するものとする。

- 一 工事計画平面図等に基づく土地の取得等の予定線
- 二 第41条第三号で調査した登記名義人の氏名等

- (2) 事務所の所在地
- (3) 包括団体の名称及び宗教法人・非宗教法人の別
- (4) 代表権を有する者の氏名、住所及び資格
- (5) 財産処分等に関する規則がある場合は、その事項
- (6) 永代使用料（入壇志納金）に関する事項
- (7) その他必要と認める事項

## 二 墓地使用（祭祀）者の調査

- (1) 墓地使用者の画地ごとに、墓地管理者等から墓地の使用（祭祀）者の氏名、住所等について聴取する。この場合において、墓地の使用者から維持・管理の委任を受けている者がいるとき又は墓地使用名義人と現実の使用者（祭祀を主宰する者）が異なっている場合には、その原因と受任者、承継人等の氏名及び住所を調査する。
- (2) それぞれの墓地の画地については、前号の調査を基に墓地管理者と協議し、墓地の使用（祭祀）者を確認する。

## 三 墓地使用（祭祀）者単位の霊名簿（過去帳）の調査

前2号で確定した墓地使用（祭祀）者（未確認のものを含む。）を単位として、墓地管理者が管理する霊名簿（過去帳）及び墓地使用（祭祀）者から次に掲げる事項を聴取する。

- (1) 法名（戒名）
- (2) 俗名、性別及び享年
- (3) 死亡年月日
- (4) 火葬、土葬の区分
- (5) 墓地使用者単位の霊数
- (6) その他必要と認める事項

### （土地利用履歴等の調査）

**第47条** 土地利用履歴等の調査は、取得又は使用の対象となる土地に係る土壤汚染状況調査の実施の要否を判定するため、土壤汚染に関する土地利用履歴等調査要領（平成24年3月30日付け国土用第53号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知（以下「土地利用履歴等調査要領」という。））により行うものとする。

## 第2節 調査書等の作成

### （転写連続地図の作成）

**第48条** 転写した地図は、各葉を複写して連続させた地図（この地図を「転写連続図」という。以下同じ。）を作成し、次の事項を記入するものとする。

- 一 工事計画平面図等に基づく土地の取得等の予定線
- 二 第43条第三号で調査した登記名義人の氏名等

三 管轄登記所名、転写年月日及び転写を行った者の氏名

(調査書の作成)

第47条 第41条から第44条までに調査した事項については、土地の登記記録調査表(様式第7号の1)、土地調査表(様式第7号の2)、建物の登記記録調査表(様式第8号の1、第8号の2)、権利者調査表(様式第9号の1、第9号の2)、墓地管理者調査表(様式第10号の1)及び墓地使用(祭祀)者調査表(様式第10号の2)に所定の事項を記載するものとする。

2 前項の各調査表の編綴は、大字及び字ごとに地番順で行うものとする。

3 土地利用履歴等の調査表は、第45条の調査結果を基に土地利用履歴等調査要領により作成するものとする。

## 第4章 用地測量

### 第1節 境界確認

(公共用地境界の打合せ)

第48条 調査区域内に国有財産法(昭和23年法律第73号)第9条及び国土交通省所管国有財産取扱規則(平成13年1月6日国土交通省訓令第61号)第4条第1項の規定に基づき、知事又は市町村長が管理する国土交通省所管国有財産が存するとき又は、公共物管理者等が管理する土地が存するときは、知事又は市町村長若しくは公共物管理者等と公共用地境界確定(境界確認を含む。)の方法について監督員の指示に基づき打合せを行わなければならない。

(資料の作成及び立会い)

第49条 前条の打合せの結果を監督員に報告し、その指示に基づき公共用地境界確定のための手続又は現況測量等に必要となる資料の収集及び作成を行うものとする。

2 知事又は市町村長若しくは公共物管理者等が現地において公共用地境界確定作業を行うときは、それらの作業を補助するものとする。

3 前条の打合せの結果、第46条により作成した転写連続図その他資料を基に現況測量等を行うことによって、知事又は市町村長若しくは公共物管理者等が公共用地境界の確定とみなすとした場合には、これに必要な作業を行うものとする。この場合に必要に応じて公共用地に隣接する土地の所有者から第53条第2項に準じた同意を取りつけるものとする。

(境界確定後の図書の作成)

第50条 前条の境界確定作業が完了したときは、速やかに公共用地境界確定のために必要な図面等の作成を行うものとする。

三 管轄登記所名、転写年月日及び転写を行った者の氏名

(調査書の作成)

第49条 第43条から第46条までに調査した事項については、土地の登記記録調査表(様式第7号の1)、土地調査表(様式第7号の2)、建物の登記記録調査表(様式第8号の1、第8号の2)、権利者調査表(様式第9号の1、第9号の2)、墓地管理者調査表(様式第10号の1)及び墓地使用(祭祀)者調査表(様式第10号の2)に所定の事項を記載するものとする。

2 前項の各調査表の編綴は、大字及び字ごとに地番順で行うものとする。

3 土地利用履歴等の調査表は、第47条の調査結果を基に土地利用履歴等調査要領により作成するものとする。

## 第4章 用地測量

### 第1節 境界確認

(公共用地境界の打合せ)

第50条 調査区域内に国有財産法(昭和23年法律第73号)第9条及び国土交通省所管国有財産取扱規則(平成13年1月6日国土交通省訓令第61号)第4条第1項の規定に基づき、知事又は市町村長が管理する国土交通省所管国有財産が存するとき、又は公共物管理者等が管理する土地が存するときは、知事又は市町村長若しくは公共物管理者等と公共用地境界確定(境界確認を含む。)の方法について監督員の指示に基づき打合せを行わなければならない。

(資料の作成及び立会い)

第51条 前条の打合せの結果を監督員に報告し、その指示に基づき公共用地境界確定のための手続又は現況測量等に必要となる資料の収集及び作成を行うものとする。

2 知事又は市町村長若しくは公共物管理者等が現地において公共用地境界確定作業を行うときは、それらの作業を補助するものとする。

3 前条の打合せの結果、第48条により作成した転写連続図その他資料を基に現況測量等を行うことによって、知事又は市町村長若しくは公共物管理者等が公共用地境界の確定とみなすとした場合には、これに必要な作業を行うものとする。この場合に必要に応じて公共用地に隣接する土地の所有者から第55条第2項に準じた同意を取りつけるものとする。

(境界確定後の図書の作成)

第52条 前条の境界確定作業が完了したときは、速やかに公共用地境界確定のために必要な図面等の作成を行うものとする。

**(立会い準備)**

**第 51 条** 調査区域内の私有地等で、所有権、借地権、地上権等で第 52 条の画地の境界点の確認を行うために立会いが必要と認められる権利者一覧表を第 41 条から第 44 条までの調査結果を基に作成するものとする。

2 前項権利者一覧表の作成が完了したときは、監督員と立会い日時、具体の作業手順等について協議し、その指示によって権利者によって権利者に対する立会い通知等の準備を行うものとする。

**(復元測量)**

**第 52 条** 受注者は、境界確認に先立ち、第 40 条において収集した地籍測量図、公共団体に備える図面及びその他参考となる図面（以下「地籍測量図等」という。）に基づき境界杭の位置を確認し、亡失等がある場合には復元するべき位置に仮杭（以下「復元杭」という。）を設置するものとする。なお、実施に当たっては次の各号に基づいて行うものとする。

- 一 収集した地籍測量図等において、復元する範囲は監督員と協議し、指示を受けるものとする。
- 二 前号で指示を受けた範囲において、収集した地籍測量図等に基づき境界杭を調査し、亡失等の異常の有無を確認するものとする。
- 三 境界杭に亡失等の異常がある場合に、復元杭を設置する。
- 四 収集した地籍測量図等に基づいて復元した杭と、現地に存する境界杭の位置が相違する場合には復元杭を設置せず、監督員に報告し、指示を受けるものとする。

**(境界立会いの画地及び範囲)**

**第 53 条** 境界立会いの画地及び範囲は、静岡県公共測量作業規程に定めるところによるほか、一筆の土地であっても、その一部が異なった現況地目となっている場合は、不動産登記事務取扱手続準則（平成 17 年 2 月 25 日民二第 456 号法務省民事局長通達）第 68 号及び第 69 条に定める地目の区分による現況地目ごとの画地とする。

**(境界立会い)**

**第 54 条** 前条の境界立会いの範囲について、各境界点に関する権利者を現地に招集し、次の各号の手順によって境界点の立会いを行うものとする。

- 一 境界標識が設置されている境界点については、関連する権利者全員の同意を得るものとする。
- 二 境界点が表示されていないため、各権利者が保有する図面等によって、現地に境界点の表示等の作業が必要と認められる場合には、これらの作業を行うものとする。この場合の作業に当たっては、いずれの側にも片寄ることなく中立の立場で行うものとする。
- 三 前号の作業によって表示した境界点が関連する権利者全員の同意が得られたときには、木杭（プラスチック杭を含む。）又は金属鋸（頭部径 15mm）等容易に移動できない標識を設置するものとする。
- 四 前各号で確認した境界点について、原則として、黄色のペイントを着色するものとする。ただし、境界石標等が埋設されていて、その必要がないものはこの限りでない。

2 前項の境界点立会いが完了したときは、関連する権利者全員から土地境界立会確認書（様式第 11 号）

**(立会い準備)**

**第 53 条** 調査区域内の私有地等で、所有権、借地権、地上権等で第 55 条の画地の境界点の確認を行うために立会いが必要と認められる権利者一覧表を第 43 条から第 46 条までの調査結果を基に作成するものとする。

2 前項権利者一覧表の作成が完了したときは、監督員と立会い日時、具体の作業手順等について協議し、その指示によって権利者によって権利者に対する立会い通知等の準備を行うものとする。

**(復元測量)**

**第 54 条** 受注者は、境界確認に先立ち、第 42 条において収集した地籍測量図、公共団体に備える図面及びその他参考となる図面（以下「地籍測量図等」という。）に基づき境界杭の位置を確認し、亡失等がある場合には復元するべき位置に仮杭（以下「復元杭」という。）を設置するものとする。なお、実施に当たっては次の各号に基づいて行うものとする。

- 一 収集した地籍測量図等において、復元する範囲は監督員と協議し、指示を受けるものとする。
- 二 前号で指示を受けた範囲において、収集した地籍測量図等に基づき境界杭を調査し、亡失等の異常の有無を確認するものとする。
- 三 境界杭に亡失等の異常がある場合に、復元杭を設置する。
- 四 収集した地籍測量図等に基づいて復元した杭と、現地に存する境界杭の位置が相違する場合には復元杭を設置せず、監督員に報告し、指示を受けるものとする。

**(境界立会いの画地及び範囲)**

**第 55 条** 境界立会いの画地及び範囲は、静岡県公共測量作業規程に定めるところによるほか、一筆の土地であっても、その一部が異なった現況地目となっている場合は、不動産登記事務取扱手続準則（平成 17 年 2 月 25 日民二第 456 号法務省民事局長通達）第 68 号及び第 69 条に定める地目の区分による現況地目ごとの画地とする。

**(境界立会い)**

**第 56 条** 前条の境界立会いの範囲について、各境界点に関する権利者を現地に招集し、次の各号の手順によって境界点の立会いを行うものとする。

- 一 境界標識が設置されている境界点については、関連する権利者全員の同意を得るものとする。
- 二 境界点が表示されていないため、各権利者が保有する図面等によって、現地に境界点の表示等の作業が必要と認められる場合には、これらの作業を行うものとする。この場合の作業に当たっては、いずれの側にも片寄ることなく中立の立場で行うものとする。
- 三 前号の作業によって表示した境界点が関連する権利者全員の同意が得られたときには、木杭（プラスチック杭を含む。）又は金属鋸（頭部径 15mm）等容易に移動できない標識を設置するものとする。
- 四 前各号で確認した境界点について、原則として、黄色のペイントを着色するものとする。ただし、境界石標等が埋設されていて、その必要がないものはこの限りでない。

2 前項の境界点立会いが完了したときは、関連する権利者全員から土地境界立会確認書（様式第 11 号）



に確認のための署名押印を求めるものとする。ただし、静岡地方法務局の指定する立会証明書又はこれに準ずる書面を使用するものとする。

- 3 第1項の境界点立会いにおいて、次の各号の一に該当する状態が生じたときは、その事由等を整理し監督員に報告し、その後の処置について指示を受けなければならない。
  - 一 関連する権利者全員の同意が得られないもの
  - 二 関連する権利者の一部が立会いを拒否したもの
  - 三 必要な境界点を確定するために測量区域以外の境界立会い又は測量を権利者から要求されたとき

## 第2節 境界測量

### (用地測量の基準点)

- 第55条** 用地測量に使用する基準点について当該公共事業に係る基準点測量が完了しているときは、別途監督員が指示する基準点測量の成果（基準点網図，測点座標値等）を基に検測して使用するものとする。
- 2 前項の基準点測量の成果を検測した結果、滅失、位置移転、毀損等が生じているときには監督員と協議するものとする。
  - 3 第1項の基準点測量が実施されていないものについては、基準点の設置，座標値の設定方法等について監督員と協議し、その指示を受けるものとする。

### (境界測量)

- 第56条** 各境界点の測量を行うに当たっては、静岡県公共測量作業規程に定めるところによるほか、土地の実測平面図の作成に必要となる建物及び主要な工作物の位置を併せて観測するものとする。
- 2 各境界点等は、連番を付するものとする。

### (用地境界仮杭の設置)

- 第57条** 境界測量等の作業が完了し用地取得の対象となる範囲が確定したときは、測量の成果等に基づきトータルステーション等を使用する方法により用地境界仮杭の設置を次の各号により行うものとする。
- 一 原則として、関連する権利者の立会いのうえ行う。
  - 二 用地境界仮杭は、木杭（プラスチック杭を含む。）又は金属鋌（頭部径15mm）等のものとする。
  - 三 用地境界仮杭には、原則として、赤色のペイントで着色とする。
- 2 前項の用地境界仮杭設置にあたり建物等で支障となり設置が困難なときには、その事由等を整理し監督員に報告しなければならない。ただし、関連する権利者が用地境界仮杭の設置を強く要求するときは用地境界仮杭を設置するものとする。この場合に、用地境界仮杭との関係を関連する権利者に充分理解させたいうで用地境界仮杭との関係図を作成するものとする。

## 第3節 面積計算の範囲

に確認のための署名押印を求めるものとする。ただし、静岡地方法務局の指定する立会証明書又はこれに準ずる書面を使用することもできるものとする。

- 3 第1項の境界点立会いにおいて、次の各号の一に該当する状態が生じたときは、その事由等を整理し監督員に報告し、その後の処置について指示を受けなければならない。
  - 一 関連する権利者全員の同意が得られないもの
  - 二 関連する権利者の一部が立会いを拒否したもの
  - 三 必要な境界点を確定するために測量区域以外の境界立会い又は測量を権利者から要求されたとき

## 第2節 境界測量

### (用地測量の基準点)

- 第57条** 用地測量に使用する基準点について当該公共事業に係る基準点測量が完了しているときは、別途監督員が指示する基準点測量の成果（基準点網図，測点座標値等）を基に検測して使用するものとする。
- 2 前項の基準点測量の成果を検測した結果、滅失、位置移転、毀損等が生じているときには監督員と協議するものとする。
  - 3 第1項の基準点測量が実施されていないものについては、基準点の設置，座標値の設定方法等について監督員と協議し、その指示を受けるものとする。

### (境界測量)

- 第58条** 各境界点の測量を行うに当たっては、静岡県公共測量作業規程に定めるところによるほか、土地の実測平面図の作成に必要となる建物及び主要な工作物の位置を併せて観測するものとする。
- 2 各境界点等は、連番を付するものとする。

### (用地境界仮杭の設置)

- 第59条** 境界測量等の作業が完了し用地取得の対象となる範囲が確定したときは、測量の成果等に基づきトータルステーション等を使用する方法により用地境界仮杭の設置を次の各号により行うものとする。
- 一 原則として、関連する権利者の立会いのうえ行う。
  - 二 用地境界仮杭は、木杭（プラスチック杭を含む。）又は金属鋌（頭部径15mm）等のものとする。
  - 三 用地境界仮杭には、原則として、赤色のペイントで着色とする。
- 2 前項の用地境界仮杭設置にあたり建物等で支障となり設置が困難なときには、その事由等を整理し監督員に報告しなければならない。ただし、関連する権利者が用地境界仮杭の設置を強く要求するときは用地境界仮杭を設置するものとする。この場合に、用地境界仮杭との関係を関連する権利者に充分理解させたいうで用地境界仮杭との関係図を作成するものとする。

## 第3節 面積計算の範囲

(面積計算の範囲)

- 第58条 面積計算の範囲は、境界確認を行う範囲とする画地を単位とし、次の各号によって行うものとする。
- 一 画地のすべてが用地取得の対象となる計画幅員線（以下「用地取得線」という。）の内に存するときは、その画地面積
  - 二 画地が用地取得線の内外に存するときは、用地取得の対象となる土地及び用地取得の対象となる土地以外の土地（残地）の面積
  - 三 前各号によらない場合については、監督員の指示による。
- 2 土地の面積は、一筆ごとに次の各号により求めるものとする。
- 一 一筆の土地に異なる現況地目があるときは、一筆の土地の総面積を求めたうえ、評価格の高い地目の土地面積から順次差し引いて面積を求めるものとし、同一の地目の土地に異なる地権者があるときは、その権利者ごとにそれぞれ面積を求めるものとする。
  - 二 前項第三号に基づき残地等の面積を求める場合には、取得等の区域と区域外に区分して、それぞれ面積を求めるものとする。この場合において当該土地に異なる地目又は権利者があるときは、前記一を準用する。

第4節 用地実測図等の作成

(用地実測図等の作成)

- 第59条 用地実測図等の作成に当たっては、静岡県公共測量作業規程の定めるところによるほか、次の各号の方法により行うものとする。
- 一 用地実測図原図は、次の事項から監督員が指示する事項を記入する。
    - (1) 土地の測量に従事した者の記名押印
    - (2) 道路名及び水路名
    - (3) 建物及び工作物
  - 二 用地平面図は、用地実測図原図から監督員が指示する事項を記入する。
  - 三 確定図は、用地実測図原図から基準点、補助基準点、中心杭、用地幅杭、筆界点等の連番、方向角、辺長、座標等の確定した数値を記入するものとする。
  - 四 精度管理の結果は、精度管理表にとりまとめるものとする。

(不動産調査報告書の作成)

- 第60条 受注者は、不動産調査報告書を、別記1不動産調査報告書記載要領に基づいて作成するものとする。

(面積計算の範囲)

- 第60条 面積計算の範囲は、境界確認を行う範囲とする画地を単位とし、次の各号によって行うものとする。
- 一 画地のすべてが用地取得の対象となる計画幅員線（以下「用地取得線」という。）の内に存するときは、その画地面積
  - 二 画地が用地取得線の内外に存するときは、用地取得の対象となる土地及び用地取得の対象となる土地以外の土地（残地）の面積
  - 三 前各号によらない場合については、監督員の指示による。
- 2 土地の面積は、一筆ごとに次の各号により求めるものとする。
- 一 一筆の土地に異なる現況地目があるときは、一筆の土地の総面積を求めたうえ、評価格の高い地目の土地面積から順次差し引いて面積を求めるものとし、同一の地目の土地に異なる地権者があるときは、その権利者ごとにそれぞれ面積を求めるものとする。
  - 二 前項第三号に基づき残地等の面積を求める場合には、取得等の区域と区域外に区分して、それぞれ面積を求めるものとする。この場合において当該土地に異なる地目又は権利者があるときは、前号を準用する。

第4節 用地実測図等の作成

(用地実測図等の作成)

- 第61条 用地実測図等の作成に当たっては、静岡県公共測量作業規程の定めるところによるほか、次の各号の方法により行うものとする。
- 一 用地実測図原図は、次の事項から監督員が指示する事項を記入する。
    - (1) 土地の測量に従事した者の記名押印
    - (2) 道路名及び水路名
    - (3) 建物及び工作物
  - 二 用地平面図は、用地実測図原図から監督員が指示する事項を記入する。
  - 三 確定図は、用地実測図原図から基準点、補助基準点、中心杭、用地幅杭、筆界点等の連番、方向角、辺長、座標等の確定した数値を記入するものとする。
  - 四 精度管理の結果は、精度管理表にとりまとめるものとする。

(不動産調査報告書の作成)

- 第62条 受注者は、不動産調査報告書を、別記1不動産調査報告書記載要領に基づいて作成するものとする。

## 第5章 土地評価

### (土地評価)

第 61 条 土地評価とは、取得等する土地（残地等に関する損失の補償を行う場合の当該残地を含む。）の更地としての正常な取引価格を算定する業務をいい、不動産の鑑定評価に関する法律（昭和 38 年法律第 152 号）第 2 条で定める「不動産の鑑定評価」は含まないものとする。

2 前項の業務については、別記 2 土地評価業務処理要領に基づいて実施するものとする。

### (土地評価の基準)

第 62 条 土地評価は、監督員から特に指示された場合を除き基準細則別記 1 土地評価 事務処理要領（以下「土地評価要領」という。）に基づき行うものとする。

### (現地踏査及び資料作成)

第 63 条 土地評価に当たっては、あらかじめ、調査区域及びその周辺区域を踏査し、当該区域の用途的特性を調査するとともに、土地評価に必要な次の各号に掲げる資料を作成するものとする。

#### 一 同一状況地域区分図

同一状況地域区分図は、近隣地域及び類似地域につき都市計画図その他類似の地図を用い、おおむね次の事項を記載したものを作成する。

- (1) 起業地の範囲、同一状況地域の範囲、土地評価要領第 5 条（2）に規定する標準地及び用途的地域の名称
- (2) 鉄道駅、バス停留所等の交通施設
- (3) 学校、官公署等の公共施設、病院等の医療施設、銀行、スーパーマーケット等の商業施設
- (4) 幹線道路の種別及び幅員
- (5) 都市計画の内容、建築物の面積・高さ等に関する基準
- (6) 行政区域、大字及び字の境界
- (7) 取引事例地
- (8) 地価公示法（昭和 44 年法律第 49 号）第 6 条により公示された標準地（以下「公示地」という。）又は国土利用計画法施行令（昭和 49 年政令第 387 号）第 9 条第 5 項により周知された基準地（以下「基準地」という。）

#### 二 取引事例地調査表

取引事例比較法に用いる取引事例は、近隣地域又は類似地域において 1 標準地につき 3 事例地程度を収集し、おおむね次の事項を整理のうえ調査表を作成する。

- (1) 土地の所在、地番及び住居表示
- (2) 土地の登記記録に記載されている地目及び面積並びに現在の土地の利用状況
- (3) 周辺地域の状況

## 第5章 土地評価

### (土地評価)

第 63 条 土地評価とは、取得等する土地（残地等に関する損失の補償を行う場合の当該残地を含む。）の更地としての正常な取引価格を算定する業務をいい、不動産の鑑定評価に関する法律（昭和 38 年法律第 152 号）第 2 条で定める「不動産の鑑定評価」は含まないものとする。

2 前項の業務については、別記 2 土地評価業務処理要領に基づいて実施するものとする。

### (土地評価の基準)

第 64 条 土地評価は、監督員から特に指示された場合を除き基準細則別記 1 土地評価事務処理要領（以下「土地評価要領」という。）に基づき行うものとする。

### (現地踏査及び資料作成)

第 65 条 土地評価に当たっては、あらかじめ、調査区域及びその周辺区域を踏査し、当該区域の用途的特性を調査するとともに、土地評価に必要な次の各号に掲げる資料を作成するものとする。

#### 一 同一状況地域区分図

同一状況地域区分図は、近隣地域及び類似地域につき都市計画図その他類似の地図を用い、おおむね次の事項を記載したものを作成する。

- (1) 起業地の範囲、同一状況地域の範囲、土地評価要領第 5 条（2）に規定する標準地及び用途的地域の名称
- (2) 鉄道駅、バス停留所等の交通施設
- (3) 学校、官公署等の公共施設、病院等の医療施設、銀行、スーパーマーケット等の商業施設
- (4) 幹線道路の種別及び幅員
- (5) 都市計画の内容、建築物の面積・高さ等に関する基準
- (6) 行政区域、大字及び字の境界
- (7) 取引事例地
- (8) 地価公示法（昭和 44 年法律第 49 号）第 6 条により公示された標準地（以下「公示地」という。）又は国土利用計画法施行令（昭和 49 年政令第 387 号）第 9 条第 5 項により周知された基準地（以下「基準地」という。）

#### 二 取引事例地調査表

取引事例比較法に用いる取引事例は、近隣地域又は類似地域において 1 標準地につき 3 事例地程度を収集し、おおむね次の事項を整理のうえ調査表を作成する。

- (1) 土地の所在、地番及び住居表示
- (2) 土地の登記記録に記載されている地目及び面積並びに現在の土地の利用状況
- (3) 周辺地域の状況

- (4) 土地に物件がある場合は、その種別、構造、数量等
- (5) 売主及び買主の氏名等及び住所等並びに取引の目的及び事情（取引に当たって特段の事情がある場合はその内容を含む。）
- (6) 取引年月日、取引価格等
- (7) 取引事例地の画地条件（間口、奥行、前面道路との接面状況等）及び図面（100分の1～500分の1程度）

### 三 収益事例調査表及び造成事例調査表

収益事例調査表及び造成事例調査表は、収益事例については総収入及び総費用並びに土地に帰属する総収益等、造成事例については素地価格及び造成工事費等のほか、前号に掲げる記載事項に準じた事項を整理のうえ作成する。

### 四 用途的地域の判定及び同一状況地域の区分の理由を明らかにした書面

### 五 地域要因及び個別的要因の格差認定基準表

格差認定基準表とは、土地価格基準表を適用するに当たり、土地価格基準表の定める要因中の細項目に係る格差率適用の判断を行うに当たり基準となるものをいう。

### 六 公示地及び基準地の選定調査表

調査区域及びその周辺区域に規準すべき公示地又は基準地があるときは、公示又は周知事項について調査表を作成する。

#### （標準地の選定及び標準地調査書の作成）

- 第64条** 土地評価に当たっては、同一状況地域ごとに標準地を選定し、標準地調査書を作成するものとする。
- 2 標準地調査書は、前条第2号で定める取引事例地調査表に準じ、選定理由を付記のうえ作成するものとする。

#### （標準地の評価調査書及び取得等の土地の評価調査書等の作成）

- 第65条** 標準地の評価は、前2条で作成した資料を基に第62条に定める土地評価の基準を適用して行い、価格決定の経緯と理由を明記した評価調査書を作成するものとする。
- 2 取得等する土地の評価は、前項で決定した標準地の価格を基に行うものとし、標準地との個別的要因の格差を明記した評価調査書を作成するものとする。
- 3 前2項の評価格は、監督員が指示する図面に記載するものとする。

#### （残地等に関する損失の補償額の算定）

- 第66条** 残地又は残借地に関する損失の補償額は、基準第53条及び基準細則第36に定めるところにより算定し、残地（又は残借地）補償額算定調査書を作成するものとする。

- (4) 土地に物件がある場合は、その種別、構造、数量等
- (5) 売主及び買主の氏名等及び住所等並びに取引の目的及び事情（取引に当たって特段の事情がある場合はその内容を含む。）
- (6) 取引年月日、取引価格等
- (7) 取引事例地の画地条件（間口、奥行、前面道路との接面状況等）及び図面（100分の1～500分の1程度）

### 三 収益事例調査表及び造成事例調査表

収益事例調査表及び造成事例調査表は、収益事例については総収入及び総費用並びに土地に帰属する総収益等、造成事例については素地価格及び造成工事費等のほか、前号に掲げる記載事項に準じた事項を整理のうえ作成する。

### 四 用途的地域の判定及び同一状況地域の区分の理由を明らかにした書面

### 五 地域要因及び個別的要因の格差認定基準表

格差認定基準表とは、土地価格基準表を適用するに当たり、土地価格基準表の定める要因中の細項目に係る格差率適用の判断を行うに当たり基準となるものをいう。

### 六 公示地及び基準地の選定調査表

調査区域及びその周辺区域に規準すべき公示地又は基準地があるときは、公示又は周知事項について調査表を作成する。

#### （標準地の選定及び標準地調査書の作成）

- 第66条** 土地評価に当たっては、同一状況地域ごとに標準地を選定し、標準地調査書を作成するものとする。
- 2 標準地調査書は、前条第2号で定める取引事例地調査表に準じ、選定理由を付記のうえ作成するものとする。

#### （標準地の評価調査書及び取得等の土地の評価調査書等の作成）

- 第67条** 標準地の評価は、前2条で作成した資料を基に第64条に定める土地評価の基準を適用して行い、価格決定の経緯と理由を明記した評価調査書を作成するものとする。
- 2 取得等する土地の評価は、前項で決定した標準地の価格を基に行うものとし、標準地との個別的要因の格差を明記した評価調査書を作成するものとする。
- 3 前2項の評価格は、監督員が指示する図面に記載するものとする。

#### （残地等に関する損失の補償額の算定）

- 第68条** 残地又は残借地に関する損失の補償額は、基準第53条及び基準細則第36に定めるところにより算定し、残地（又は残借地）補償額算定調査書を作成するものとする。

## 第6章 建物等の調査

### 第1節 調査

#### (建物等の調査)

第67条 建物等の調査とは、建物、工作物及び立竹木について、それぞれの種類、数量、品等又は機能等を調査することをいう。

#### (建物等の配置等)

第68条 次条以降の建物等の調査に当たっては、あらかじめ当該権利者が所有し、又は使用する一面の敷地ごとに、次の各号に掲げる建物等の配置に関する調査を行うものとする。

- 一 建物、工作物及び立竹木の位置
- 二 敷地と土地の取得等の予定線の位置
- 三 敷地と接続する道路の幅員、敷地の方位等
- 四 その他配置図作成に必要となる事項

2 建物等の全部又は一部が残地に存する場合には、監督員から調査の実施範囲について指示を受けるものとする。

#### (法令適合性の調査)

第69条 建物等の調査に当たっては、次の各号の時期における当該建物又は工作物につき基準第28条第2項ただし書きに基づく補償の要否の判定に必要となる法令に係る適合状況を調査するものとする。この場合において、調査対象法令については監督員と協議するものとする。

- 一 調査時
- 二 建設時又は大規模な増改築時

#### (木造建物)

第70条 木造建物〔Ⅰ〕の調査は、建物移転料算定要領（平成28年3月11日付け国土用第76号国土交通省土地・建設産業局総務課長通知（以下「建物要領」という。）別添一木造建物調査積算要領（以下「木造建物要領」という。）により行うものとする。

2 木造建物〔Ⅱ〕及び木造建物〔Ⅲ〕の調査は、木造建物要領を準用して行うほか、当該建物の推定再建築費の積算が可能となるよう行うものとする。

3 前2項の実施に当たっては、基準細則第15別表第11の各項目別補正率表に掲げる補正項目に係る建物の各部位の補修等の有無を調査するものとする。

4 第1項及び第2項の調査に当たっては、石綿調査算定要領（平成24年3月30日国土用第50号国土交通省土地・建設業局地価調査課長通知。）により調査を行うものとする。

## 第6章 建物等の調査

### 第1節 調査

#### (建物等の調査)

第69条 建物等の調査とは、建物、工作物及び立竹木について、それぞれの種類、数量、品等又は機能等を調査することをいう。

#### (建物等の配置等)

第70条 次条以降の建物等の調査に当たっては、あらかじめ当該権利者が所有し、又は使用する一面の敷地ごとに、次の各号に掲げる建物等の配置に関する調査を行うものとする。

- 一 建物、工作物及び立竹木の位置
- 二 敷地と土地の取得等の予定線の位置
- 三 敷地と接続する道路の幅員、敷地の方位等
- 四 その他配置図作成に必要となる事項

2 建物等の全部又は一部が残地に存する場合には、監督員から調査の実施範囲について指示を受けるものとする。

#### (法令適合性の調査)

第71条 建物等の調査に当たっては、次の各号の時期における当該建物又は工作物につき基準第28条第2項ただし書きに基づく補償の要否の判定に必要となる法令に係る適合状況を調査するものとする。この場合において、調査対象法令については監督員と協議するものとする。

- 一 調査時
- 二 建設時又は大規模な増改築時

#### (木造建物)

第72条 木造建物〔Ⅰ〕の調査は、建物移転料算定要領（平成28年3月11日付け国土用第76号国土交通省土地・建設産業局総務課長通知（以下「建物要領」という。）別添一木造建物調査積算要領（以下「木造建物要領」という。）により行うものとする。

2 木造建物〔Ⅱ〕及び木造建物〔Ⅲ〕の調査は、木造建物要領を準用して行うほか、当該建物の推定再建築費の積算が可能となるよう行うものとする。

3 前2項の実施に当たっては、基準細則第15別表第11の各項目別補正率表に掲げる補正項目に係る建物の各部位の補修等の有無を調査するものとする。

(削る。)

(木造特殊建物)

第71条 木造特殊建物の調査は、前条第2項及び第3項並びに第4項を準用するものとする。

(非木造建物)

第72条 非木造建物〔I〕の調査は、建物要領別添二非木造建物調査積算要領（以下「非木造建物要領」という。）により行うものとする。

2 非木造建物〔II〕の調査は、非木造建物要領を準用して行うほか、当該建物の推定再建築費の積算が可能となるよう行うものとする。

3 前2項の調査に当たっては、石綿調査算定要領（平成24年3月30日国土用第50号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知。）により調査を行うものとする。

(機械設備)

第73条 機械設備の調査は、機械設備調査算定要領（平成24年3月30日付け国土用第48号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知。（以下「機械設備要領」という。))により行うものとする。

(生産設備)

第74条 生産設備の調査は、次の各号について行うものとする。

- 一 生産設備の配置状況。調査に当たり必要があると認められるときは、平板測量等を行う。
- 二 種類（使用目的）
- 三 規模（形状及び寸法）、材質及び数量
- 四 園芸用フレーム、牛、豚、鶏その他の家畜の飼育施設又は煙突、給水塔、貯水池、用水堰、浄水池等にあつては、当該設備の構造の詳細、収容能力、処理能力等
- 五 ゴルフ練習場、駐車場、テニスコート等にあつては、打席数又は収容台数等
- 六 当該設備の取得年月日及び耐用年数
- 七 その他補償額の算定に必要と認められる事項
- 八 当該設備の概要が把握できる写真の撮影

(附帯工作物)

第75条 附帯工作物の調査は、附帯工作物調査算定要領（平成24年3月30日付け国土用第49号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知。（以下「附帯工作物要領」という。))により行うものとする。

(庭園)

第76条 庭園の調査は、次の各号について行うものとする。

- 一 庭園に設置されている庭石、灯籠、築山、池等の配置の状況及び植栽されている立竹木の配置の状況。配置の調査は、平板測量により行うものとする。ただし、規模が小さく平板測量以外で行うことが可能なものにあつては、他の方法により行うことができる。
- 二 庭石、灯籠、築山、池等の形状、構造、数量等

(木造特殊建物)

第73条 木造特殊建物の調査は、前条第2項及び第3項並びに第4項を準用するものとする。

(非木造建物)

第74条 非木造建物〔I〕の調査は、建物要領別添二非木造建物調査積算要領（以下「非木造建物要領」という。）により行うものとする。

2 非木造建物〔II〕の調査は、非木造建物要領を準用して行うほか、当該建物の推定再建築費の積算が可能となるよう行うものとする。

(削る。)

(機械設備)

第75条 機械設備の調査は、機械設備調査算定要領（平成24年3月30日付け国土用第48号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知。（以下「機械設備要領」という。))により行うものとする。

(生産設備)

第76条 生産設備の調査は、次の各号について行うものとする。

- 一 生産設備の配置状況。調査に当たり必要があると認められるときは、平板測量等を行う。
- 二 種類（使用目的）
- 三 規模（形状及び寸法）、材質及び数量
- 四 園芸用フレーム、牛、豚、鶏その他の家畜の飼育施設又は煙突、給水塔、貯水池、用水堰、浄水池等にあつては、当該設備の構造の詳細、収容能力、処理能力等
- 五 ゴルフ練習場、駐車場、テニスコート等にあつては、打席数又は収容台数等
- 六 当該設備の取得年月日及び耐用年数
- 七 その他補償額の算定に必要と認められる事項
- 八 当該設備の概要が把握できる写真の撮影

(附帯工作物)

第77条 附帯工作物の調査は、附帯工作物調査算定要領（平成24年3月30日付け国土用第49号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知。（以下「附帯工作物要領」という。))により行うものとする。

(庭園)

第78条 庭園の調査は、次の各号について行うものとする。

- 一 庭園に設置されている庭石、灯籠、築山、池等の配置の状況及び植栽されている立竹木の配置の状況。配置の調査は、平板測量により行うものとする。ただし、規模が小さく平板測量以外で行うことが可能なものにあつては、他の方法により行うことができる。
- 二 庭石、灯籠、築山、池等の形状、構造、数量等

- 三 庭園区域内にある立竹木の種類、形状、寸法、数量等
- 四 その他補償額の算定に必要と認められる事項
- 五 庭園の概要が把握できる写真の撮影

**(墳 墓)**

**第 77 条** 墳墓の調査は、次の各号について行うものとする。

- 一 墓地の配置の状況、墓地使用者（祭祀者のこと。以下同じ。）ごとの画地及び通路等の配置の状況。配置の調査は、墓地管理者の立会いを得て平板測量により行うものとする。ただし、規模が小さく平板測量以外で行うことが可能なものにあつては、他の方法により行うことができる。
- 二 墓地使用者ごとの墓石の形状、寸法、構造及び種類
- 三 墓地使用者ごとの墓誌等の形状、寸法及び種類
- 四 墓地使用者ごとのカロートの形状、寸法及び種類（石造又はコンクリート造）。不可視部分については、墓地使用者又は墓地管理者からその状況を聴取する。
- 五 墓地使用者ごとのその他の石積、囲障、立竹木等の種類、形状、寸法及び数量
- 六 その他補償額の算定に必要と認められる事項
- 七 墓地及び墳墓の概要が把握できる写真の撮影

**(立 竹 木)**

**第 78 条** 立竹木の調査は、第 9 条表 3 の区分ごとに次の各号により行うものとする。

- 一 庭木等（観賞樹、効用樹及び風致木）の調査
  - (1) 権利者の画地ごとに立木の位置を調査する。当該画地の一部を取得等するときは、取得等する部分と残地の部分とに区分し、立木の位置を図面に表示するとともに番号（寄植及び連植であつて同樹種、同寸法の場合は、同番号とする。）を付す。
  - (2) 立木については、樹種名、根本周囲、胸高直径、幹周、枝幅、樹高、管理の状況（表 4 の判断基準による区分）等を調査する。

表 4 管理状況の判断基準

判 断 基 準	区 分
年 2 回程度以上の手入れ（剪定）が行われ樹型が整っているもの	良 い
年 1 回程度の手入れ（剪定）を行っているもの	やや良い
上記以外のもの	普 通

- (3) 観賞用竹（ほていちく、きんめいちく、なりひらたけ、かんちく等）については、5 本程度を 1 株として、その位置を(1)の図面に表示するとともに番号を付す。
- (4) 芝、地被類、草花等については、植込みの面積を調査する。
- 二 用材林立木の調査
  - (1) 権利者ごとに、原則として、毎木調査により、樹種、胸高直径、林齢(又は植林年次)、人工林・天然生林の別、管理の状況等を調査する。

- 三 庭園区域内にある立竹木の種類、形状、寸法、数量等
- 四 その他補償額の算定に必要と認められる事項
- 五 庭園の概要が把握できる写真の撮影

**(墳 墓)**

**第 79 条** 墳墓の調査は、次の各号について行うものとする。

- 一 墓地の配置の状況、墓地使用者（祭祀者のこと。以下同じ。）ごとの画地及び通路等の配置の状況。配置の調査は、墓地管理者の立会いを得て平板測量により行うものとする。ただし、規模が小さく平板測量以外で行うことが可能なものにあつては、他の方法により行うことができる。
- 二 墓地使用者ごとの墓石の形状、寸法、構造及び種類
- 三 墓地使用者ごとの墓誌等の形状、寸法及び種類
- 四 墓地使用者ごとのカロートの形状、寸法及び種類（石造又はコンクリート造）。不可視部分については、墓地使用者又は墓地管理者からその状況を聴取する。
- 五 墓地使用者ごとのその他の石積、囲障、立竹木等の種類、形状、寸法及び数量
- 六 その他補償額の算定に必要と認められる事項
- 七 墓地及び墳墓の概要が把握できる写真の撮影

**(立 竹 木)**

**第 80 条** 立竹木の調査は、第 9 条表 3 の区分ごとに次の各号により行うものとする。

- 一 庭木等（観賞樹、効用樹及び風致木）の調査
  - (1) 権利者の画地ごとに立木の位置を調査する。当該画地の一部を取得等するときは、取得等する部分と残地の部分とに区分し、立木の位置を図面に表示するとともに番号（寄植及び連植であつて同樹種、同寸法の場合は、同番号とする。）を付す。
  - (2) 立木については、樹種名、根本周囲、胸高直径、幹周、枝幅、樹高、管理の状況（表 4 の判断基準による区分）等を調査する。

表 4 管理状況の判断基準

判 断 基 準	区 分
年 2 回程度以上の手入れ（剪定）が行われ樹型が整っているもの	良 い
年 1 回程度の手入れ（剪定）を行っているもの	やや良い
上記以外のもの	普 通

- (3) 観賞用竹（ほていちく、きんめいちく、なりひらたけ、かんちく等）については、5 本程度を 1 株として、その位置を(1)の図面に表示するとともに番号を付す。
- (4) 芝、地被類、草花等については、植込みの面積を調査する。
- 二 用材林立木の調査
  - (1) 権利者ごとに、原則として、毎木調査により、樹種、胸高直径、林齢(又は植林年次)、人工林・天然生林の別、管理の状況等を調査する。

(2) 監督員から、標準地調査法により調査を実施する旨の指示があったときは、次により行う。

イ 権利者ごとに、当該土地に植栽されている立木を樹種ごとに一括して取扱うことが相当と認められる区域を決定し、調査する。ただし、同樹種区域であっても立木の粗密度、径級、配置、成育状況及び植林年次が異なっていると認められる場合には、これらが異なるごとの範囲を調査し、区分する。

ロ イで定めた区域内で最も標準と認められる範囲（標準地）1,000 平方メートル程度を定め、当該範囲内にある樹種名、胸高直径、本数及び樹令（又は植林年次）を調査する。なお、イで定めた区域が 5,000 平方メートル程度以下の場合には、標準地の面積を当該区域面積の 10 パーセント程度をもって行う。

### 三 薪炭林立木の調査

前号用材林立木の調査に準じて行う。

### 四 収穫樹の調査

樹種、幹周、胸高直径、樹齡（又は植付年次）、管理の状況等を調査する。

樹園地に囲障、吊り棚等の工作物が存するときは、これらについても第 75 条の例により調査する。

### 五 竹林の調査

(1) 権利者ごとに竹林として取扱うことが相当と認められる区域を決定する。この場合において、筍の収穫を目的としているものとその他のものとに区分する。

(2) (1) で定めた区域内で最も標準と認められる範囲（標準地）500 平方メートル程度を定め、当該範囲内にある品種、本数及び胸高直径(筍を目的とするものを除く。)並びに筍の収穫を目的とするものにあつては、その管理の状況等を調査する。

### 六 苗木（植木畑）の調査

権利者ごとに苗木（植木畑）として取扱うことが相当と認められる区域を決定し、植栽されている苗木について、同樹種、同寸法のものごとに樹種名、根本周囲、胸高直径、枝幅、樹高、本数、樹齡（育生年数）及び管理の状況を調査する。この場合において、同樹種同寸法のもので大規模に植栽されている場合には、第二号(2)の標準地調査の例により行うことができる。

### 七 その他の立木の調査

立木の存する位置、樹種等により前各号の調査に準じて行う。

八 権利者の画地ごとの代表的な立竹木（標準地調査の場合は、標準地の立竹木の概要が把握できるもの）の写真の撮影

## 第 2 節 調査書等の作成

### （建物等の配置図の作成）

第 79 条 建物等の配置図は、前節の調査結果を基に建物要領により作成するものとする。

### （法令に基づく施設改善）

(2) 監督員から、標準地調査法により調査を実施する旨の指示があったときは、次により行う。

イ 権利者ごとに、当該土地に植栽されている立木を樹種ごとに一括して取扱うことが相当と認められる区域を決定し、調査する。ただし、同樹種区域であっても立木の粗密度、径級、配置、成育状況及び植林年次が異なっていると認められる場合には、これらが異なるごとの範囲を調査し、区分する。

ロ イで定めた区域内で最も標準と認められる範囲（標準地）1,000 平方メートル程度を定め、当該範囲内にある樹種名、胸高直径、本数及び樹令（又は植林年次）を調査する。なお、イで定めた区域が 5,000 平方メートル程度以下の場合には、標準地の面積を当該区域面積の 10 パーセント程度をもって行う。

### 三 薪炭林立木の調査

前号用材林立木の調査に準じて行う。

### 四 収穫樹の調査

樹種、幹周、胸高直径、樹齡（又は植付年次）、管理の状況等を調査する。

樹園地に囲障、吊り棚等の工作物が存するときは、これらについても第 75 条の例により調査する。

### 五 竹林の調査

(1) 権利者ごとに竹林として取扱うことが相当と認められる区域を決定する。この場合において、筍の収穫を目的としているものとその他のものとに区分する。

(2) (1) で定めた区域内で最も標準と認められる範囲（標準地）500 平方メートル程度を定め、当該範囲内にある品種、本数及び胸高直径(筍を目的とするものを除く。)並びに筍の収穫を目的とするものにあつては、その管理の状況等を調査する。

### 六 苗木（植木畑）の調査

権利者ごとに苗木（植木畑）として取扱うことが相当と認められる区域を決定し、植栽されている苗木について、同樹種、同寸法のものごとに樹種名、根本周囲、胸高直径、枝幅、樹高、本数、樹齡（育生年数）及び管理の状況を調査する。この場合において、同樹種同寸法のもので大規模に植栽されている場合には、第二号(2)の標準地調査の例により行うことができる。

### 七 その他の立木の調査

立木の存する位置、樹種等により前各号の調査に準じて行う。

八 権利者の画地ごとの代表的な立竹木（標準地調査の場合は、標準地の立竹木の概要が把握できるもの）の写真の撮影

## 第 2 節 調査書等の作成

### （建物等の配置図の作成）

第 81 条 建物等の配置図は、前節の調査結果を基に建物要領により作成するものとする。

### （法令に基づく施設改善）



**第 80 条** 法令に基づく施設改善の調査書は、第 69 条の調査結果を基に調査書を作成するものとする。

2 当該建物又は工作物が建設時又は大規模な増改築時においては法令に適合していたが、調査時には法令に適合していない（このような状態にある建物又は工作物を、以下「既存不適格物件」という。）と認められる場合には、次の各号に掲げる事項を調査書に記載するものとする。

- 一 法令名及び条項
- 二 改善内容

#### （木造建物）

**第 81 条** 木造建物の図面及び調査書は、第 70 条の調査結果を基に作成するものとする。

2 木造建物〔Ⅰ〕の図面及び調査書は、木造建物要領により作成するものとする。

3 木造建物〔Ⅱ〕及び木造建物〔Ⅲ〕の図面及び調査書は、木造建物要領を準用して作成するほか、次の各号の図面を作成するものとする。

- 一 基礎伏図（縮尺 100 分の 1）
- 二 床伏図（縮尺 100 分の 1）
- 三 軸組図（縮尺 100 分の 1）
- 四 小屋伏図（縮尺 100 分の 1）

#### （木造特殊建物）

**第 82 条** 木造特殊建物の図面及び調査書は、第 71 条の調査結果を基に作成するものとする。

2 図面は、木造建物要領を準用して作成するほか、次の各号の図面を作成するものとする。

- 一 基礎伏図（縮尺 100 分の 1）
- 二 床伏図（縮尺 100 分の 1）
- 三 軸組図（縮尺 100 分の 1）
- 四 小屋伏図（縮尺 100 分の 1）
- 五 断面図（矩計図）（縮尺 50 分の 1）
- 六 必要に応じて上記各図面の詳細図（縮尺は適宜のものとする。）

3 調査書は、木造建物要領に準じ、次の各号により作成するものとする。

- 一 建物ごとに、推定再建築費を積算するために必要な数量を算出する。
- 二 当該建物の移転工法の認定及び補償額の算出が可能となる内容とする。

#### （非木造建物）

**第 83 条** 非木造建物〔Ⅰ〕の図面及び調査書は、第 72 条第 1 項の調査結果を基に非木造建物要領により作成するものとする。

2 非木造建物〔Ⅱ〕の図面及び調査書は、第 72 条第 2 項の調査結果を基に非木造建物要領を準用して作成するものとする。

#### （機械設備）

**第 84 条** 機械設備の図面及び調査書は、第 73 条の調査結果を基に機械設備要領により作成するものとする。

**第 82 条** 法令に基づく施設改善の調査書は、第 71 条の調査結果を基に調査書を作成するものとする。

2 当該建物又は工作物が建設時又は大規模な増改築時においては法令に適合していたが、調査時には法令に適合していない（このような状態にある建物又は工作物を、以下「既存不適格物件」という。）と認められる場合には、次の各号に掲げる事項を調査書に記載するものとする。

- 一 法令名及び条項
- 二 改善内容

#### （木造建物）

**第 83 条** 木造建物の図面及び調査書は、第 72 条の調査結果を基に作成するものとする。

2 木造建物〔Ⅰ〕の図面及び調査書は、木造建物要領により作成するものとする。

3 木造建物〔Ⅱ〕及び木造建物〔Ⅲ〕の図面及び調査書は、木造建物要領を準用して作成するほか、次の各号の図面を作成するものとする。

- 一 基礎伏図（縮尺 100 分の 1）
- 二 床伏図（縮尺 100 分の 1）
- 三 軸組図（縮尺 100 分の 1）
- 四 小屋伏図（縮尺 100 分の 1）

#### （木造特殊建物）

**第 84 条** 木造特殊建物の図面及び調査書は、第 73 条の調査結果を基に作成するものとする。

2 図面は、木造建物要領を準用して作成するほか、次の各号の図面を作成するものとする。

- 一 基礎伏図（縮尺 100 分の 1）
- 二 床伏図（縮尺 100 分の 1）
- 三 軸組図（縮尺 100 分の 1）
- 四 小屋伏図（縮尺 100 分の 1）
- 五 断面図（矩計図）（縮尺 50 分の 1）
- 六 必要に応じて上記各図面の詳細図（縮尺は適宜のものとする。）

3 調査書は、木造建物要領に準じ、次の各号により作成するものとする。

- 一 建物ごとに、推定再建築費を積算するために必要な数量を算出する。
- 二 当該建物の移転工法の認定及び補償額の算出が可能となる内容とする。

#### （非木造建物）

**第 85 条** 非木造建物〔Ⅰ〕の図面及び調査書は、第 74 条第 1 項の調査結果を基に非木造建物要領により作成するものとする。

2 非木造建物〔Ⅱ〕の図面及び調査書は、第 74 条第 2 項の調査結果を基に非木造建物要領を準用して作成するものとする。

#### （機械設備）

**第 86 条** 機械設備の図面及び調査書は、第 75 条の調査結果を基に機械設備要領により作成するものとする。

る。

**(生産設備)**

**第 85 条** 生産設備の図面及び調査書は、第 74 条の調査結果を基に作成するものとする。

- 2 図面は、生産設備の種類、構造、規模等を考慮して、補償額の算定に必要となる平面図、立面図、構造図、断面図等を作成するものとする。
- 3 調査書は、前条に準じ作成するものとする。

**(附帯工作物)**

**第 86 条** 附帯工作物の図面及び調査表は、第 75 条の調査結果を基に附帯工作物要領により作成するものとする。

**(庭園)**

**第 87 条** 庭園の調査書は、第 76 条の調査結果を基に次の各号により作成するものとする。

- 一 庭園に設置されている庭石等については、附帯工作物要領により作成するものとする。
- 二 庭園に配置されている立竹木については、立竹木調査表（様式第 14 号の 1）を用いて、補償額の算定に必要と認められる事項を記載することにより作成するものとする。

**(墳墓)**

**第 88 条** 墳墓の図面及び調査書は、第 77 条の調査結果を基に作成するものとする。

- 2 図面は、次の各号により作成するものとする。
  - 一 墓地使用者ごとの画地及び通路等の区分を明確にする。
  - 二 墓地使用者の画地ごとに番号を付す。
  - 三 土地の取得等の予定線を記入する。
- 3 調査書は、次の各号により作成するものとする。
  - 一 墓石、墓誌、カロート等については、墳墓調査表（様式第 13 号）を用いて補償額の算定に必要と認められる事項を記載することにより作成するものとする。
  - 二 石積、囲障等については、附帯工作物要領により作成するものとする。
  - 三 立竹木については、立竹木調査表（様式第 14 号の 1）を用いて、補償額の算定に必要と認められる事項を記載することにより作成するものとする。

**(立竹木)**

**第 89 条** 立竹木の図面及び調査書は、第 78 条の調査結果を基に作成するものとする。

- 2 第 78 条第 5 号又は第 2 号、第 3 号、第 6 号及び第 7 号で標準地調査を行ったものの図面には、次の各号の事項を記載するものとする。
  - 一 標準地の位置及び面積
  - 二 標準地を基準として樹木数量等を決定した範囲及び面積
- 3 調査書は、立竹木調査表（様式第 14 号の 1）を用いて、補償額の算定に必要と認められる事項を記載

る。

**(生産設備)**

**第 87 条** 生産設備の図面及び調査書は、第 76 条の調査結果を基に作成するものとする。

- 2 図面は、生産設備の種類、構造、規模等を考慮して、補償額の算定に必要となる平面図、立面図、構造図、断面図等を作成するものとする。
- 3 調査書は、前条に準じ作成するものとする。

**(附帯工作物)**

**第 88 条** 附帯工作物の図面及び調査表は、第 77 条の調査結果を基に附帯工作物要領により作成するものとする。

**(庭園)**

**第 89 条** 庭園の調査書は、第 78 条の調査結果を基に次の各号により作成するものとする。

- 一 庭園に設置されている庭石等については、附帯工作物要領により作成するものとする。
- 二 庭園に配置されている立竹木については、立竹木調査表（様式第 14 号の 1）を用いて、補償額の算定に必要と認められる事項を記載することにより作成するものとする。

**(墳墓)**

**第 90 条** 墳墓の図面及び調査書は、第 79 条の調査結果を基に作成するものとする。

- 2 図面は、次の各号により作成するものとする。
  - 一 墓地使用者ごとの画地及び通路等の区分を明確にする。
  - 二 墓地使用者の画地ごとに番号を付す。
  - 三 土地の取得等の予定線を記入する。
- 3 調査書は、次の各号により作成するものとする。
  - 一 墓石、墓誌、カロート等については、墳墓調査表（様式第 13 号）を用いて補償額の算定に必要と認められる事項を記載することにより作成するものとする。
  - 二 石積、囲障等については、附帯工作物要領により作成するものとする。
  - 三 立竹木については、立竹木調査表（様式第 14 号の 1）を用いて、補償額の算定に必要と認められる事項を記載することにより作成するものとする。

**(立竹木)**

**第 91 条** 立竹木の図面及び調査書は、第 80 条の調査結果を基に作成するものとする。

- 2 第 80 条第 5 号又は第 2 号、第 3 号、第 6 号及び第 7 号で標準地調査を行ったものの図面には、次の各号の事項を記載するものとする。
  - 一 標準地の位置及び面積
  - 二 標準地を基準として樹木数量等を決定した範囲及び面積
- 3 調査書は、立竹木調査表（様式第 14 号の 1）を用いて、補償額の算定に必要と認められる事項を記載

することにより作成するものとする。

### 第3節 算定

#### (移転先の検討)

**第90条** 建物等を移転する必要がある、かつ、相当程度の残地が生ずるため、残地を当該建物等の移転先地とすることの検討を行う場合（第10章移転工法案の検討に該当するものを除く。）には、残地が建物等の移転先地として基準細則第15第1項（四）アからエまでの要件に該当するか否かの検討をするものとする。

2 前項の検討にあたり残地に従前の建物に照応する建物を再現するための当該照応建物（以下「照応建物」という。）の推定建築費は、概算額によるものとし、平面図及び立面図はこのための必要最小限度のものを作成するものとする。なお、監督員から、当該照応建物の詳細な設計による推定建築費の積算を指示された場合は、この限りでない。

3 第1項の検討にあたり、当該請負契約に対象とされていない補償項目に係わる見積額は、監督員から教示を得るものとする。

4 前3項の検討にあたり、移転を必要とする残地内の建物等については、第79条で定める図面に対象となるものを明示するものとする。

#### (法令に基づく施設改善費用に係る運用益損失額の算定)

**第91条** 既設の施設を法令の規定に適合させるために必要となる最低限の改善費用に係る運用益損失額の算定は、第80条の調査結果から当該建物又は工作物が既存不適格物件であると認める場合に、基準細則第15第7項の定めるところにより行うものとする。

#### (木造建物)

**第92条** 木造建物の移転料を推定再建築費を基礎として算出するときは、建物ごとに第81条で作成した図面及び調査書を基に、木造建物〔Ⅰ〕については木造建物要領により、当該建物の推定再建築費を積算するものとする。なお、木造建物〔Ⅱ〕及び木造建物〔Ⅲ〕の推定再建築費の積算に当たっては、木造建物要領第2条第3項に定めるところによるものとする。

2 木造建物の補償額の算定は、監督員から指示された移転工法に従い、建物要領により行うものとする。

#### (木造特殊建物)

**第93条** 木造特殊建物の移転料を推定再建築費を基礎として算出するときは、建物ごとに第82条で作成した図面及び調査書を基に積算するものとする。

なお、その積算に当たっては、木造建物要領第2条第3項に定めるところによるものとする。

2 木造特殊建物の補償額の算定は、監督員から指示された移転工法に従い、建物要領により行うものとする。

することにより作成するものとする。

### 第3節 算定

#### (移転先の検討)

**第92条** 建物等を移転する必要がある、かつ、相当程度の残地が生ずるため、残地を当該建物等の移転先地とすることの検討を行う場合（第10章移転工法案の検討に該当するものを除く。）には、残地が建物等の移転先地として基準細則第15第1項（四）アからエまでの要件に該当するか否かの検討をするものとする。

2 前項の検討にあたり残地に従前の建物に照応する建物を再現するための当該照応建物（以下「照応建物」という。）の推定建築費は、概算額によるものとし、平面図及び立面図はこのための必要最小限度のものを作成するものとする。なお、監督員から、当該照応建物の詳細な設計による推定建築費の積算を指示された場合は、この限りでない。

3 第1項の検討にあたり、当該請負契約に対象とされていない補償項目に係わる見積額は、監督員から教示を得るものとする。

4 前3項の検討にあたり、移転を必要とする残地内の建物等については、第81条で定める図面に対象となるものを明示するものとする。

#### (法令に基づく施設改善費用に係る運用益損失額の算定)

**第93条** 既設の施設を法令の規定に適合させるために必要となる最低限の改善費用に係る運用益損失額の算定は、第69条の調査結果から当該建物又は工作物が既存不適格物件であると認める場合に、基準細則第15第7項の定めるところにより行うものとする。

#### (木造建物)

**第94条** 木造建物の移転料を推定再建築費を基礎として算出するときは、建物ごとに第83条で作成した図面及び調査書を基に、木造建物〔Ⅰ〕については木造建物要領により、当該建物の推定再建築費を積算するものとする。なお、木造建物〔Ⅱ〕及び木造建物〔Ⅲ〕の推定再建築費の積算に当たっては、木造建物要領第2条第3項に定めるところによるものとする。

2 木造建物の補償額の算定は、監督員から指示された移転工法に従い、建物要領により行うものとする。

#### (木造特殊建物)

**第95条** 木造特殊建物の移転料を推定再建築費を基礎として算出するときは、建物ごとに第84条で作成した図面及び調査書を基に積算するものとする。

なお、その積算に当たっては、木造建物要領第2条第3項に定めるところによるものとする。

2 木造特殊建物の補償額の算定は、監督員から指示された移転工法に従い、建物要領により行うものとする。

(非木造建物)

第 94 条 非木造建物の移転料を推定再建築費を基礎として算出するときは、建物ごとに第 83 条で作成した図面及び調査書を基に、非木造建物〔Ⅰ〕については非木造建物要領により、当該建物の推定再建築費を積算するものとする。

なお、非木造建物〔Ⅱ〕の推定再建築費の積算に当たっては、非木造建物要領第 3 条第 3 項に定めるところによるものとする。

2 非木造建物の補償額の算定は、監督員から指示された移転工法に従い、建物要領により行うものとする。

(照応建物の詳細設計)

第 95 条 第 90 条第 2 項なお書きによる照応建物の推定建築費の積算にあたっては、次の各号に掲げるもののほか、積算に必要となる図面を作成するものとする。

- 一 照応建物についての計画概要表（様式第 15 号の 1、第 15 号の 2）
- 二 面積比較表（様式第 15 号の 4）

(機械設備)

第 96 条 機械設備の補償額の算定は、第 84 条で作成した資料を基に機械設備要領により行うものとする。

(生産設備)

第 97 条 生産設備の補償額の算定は、第 85 条で作成した資料を基に当該設備の移設の可否及び適否について検討し、行うものとする。

2 生産設備の補償額の算定に専門的な知識が必要であり、かつ、メーカー等でなければ算定が困難と認められるものについては、前条に準じて処理するものとする。

(附帯工作物)

第 98 条 附帯工作物の補償額の算定は、第 86 条で作成した資料を基に附帯工作物要領により行うものとする。

(庭園)

第 99 条 庭園の補償額の算定は、第 87 条で作成した資料を基に当該庭園の再現方法等を検討し、行うものとする。

(墳墓)

第 100 条 墳墓の補償額の算定は、第 88 条で作成した資料を基に当該墳墓の移転先及び当該地方における改葬方法の慣行等を検討し、改葬費を併せて行うものとする。

(非木造建物)

第 96 条 非木造建物の移転料を推定再建築費を基礎として算出するときは、建物ごとに第 85 条で作成した図面及び調査書を基に、非木造建物〔Ⅰ〕については非木造建物要領により、当該建物の推定再建築費を積算するものとする。

なお、非木造建物〔Ⅱ〕の推定再建築費の積算に当たっては、非木造建物要領第 3 条第 3 項に定めるところによるものとする。

2 非木造建物の補償額の算定は、監督員から指示された移転工法に従い、建物要領により行うものとする。

(照応建物の詳細設計)

第 97 条 第 92 条第 2 項なお書きによる照応建物の推定建築費の積算にあたっては、次の各号に掲げるもののほか、積算に必要となる図面を作成するものとする。

- 一 照応建物についての計画概要表（様式第 15 号の 1、第 15 号の 2）
- 二 面積比較表（様式第 15 号の 4）

(機械設備)

第 98 条 機械設備の補償額の算定は、第 86 条で作成した資料を基に機械設備要領により行うものとする。

(生産設備)

第 99 条 生産設備の補償額の算定は、第 87 条で作成した資料を基に当該設備の移設の可否及び適否について検討し、行うものとする。

2 生産設備の補償額の算定に専門的な知識が必要であり、かつ、メーカー等でなければ算定が困難と認められるものについては、前条に準じて処理するものとする。

(附帯工作物)

第 100 条 附帯工作物の補償額の算定は、第 88 条で作成した資料を基に附帯工作物要領により行うものとする。

(庭園)

第 101 条 庭園の補償額の算定は、第 89 条で作成した資料を基に当該庭園の再現方法等を検討し、行うものとする。

(墳墓)

第 102 条 墳墓の補償額の算定は、第 90 条で作成した資料を基に当該墳墓の移転先及び当該地方における改葬方法の慣行等を検討し、改葬費を併せて行うものとする。

(立竹木)

第 101 条 立竹木の補償額の算定は、第 89 条で作成した資料を基に当該立竹木の移植の可否及び適否について検討し、行うものとする。

## 第 7 章 営業その他の調査

### 第 1 節 調 査

(営業その他の調査)

第 102 条 営業その他の調査とは、営業、居住者等及び動産に関する調査をいう。

(営業に関する調査)

第 103 条 法人が営業主体である場合の営業に関する調査は、補償額の算定に必要となる次の各号に掲げる事項について行うものとする。

一 営業主体に関するもの

- (1) 法人の名称、所在地、代表者の氏名及び設立年月日
- (2) 移転等の対象となる事業所等の名称、所在地、責任者の氏名及び開設年月日
- (3) 資本金の額
- (4) 法人の組織（支店等及び子会社）
- (5) 移転等の対象となる事業所等の従業員数及び平均賃金
- (6) 移転等の対象となる事業所等の敷地及び建物の所有関係

二 業務内容に関するもの

- (1) 業種
- (2) 移転等の対象となる事業所等の製造、加工又は販売等の主な品目
- (3) 原材料、製品又は商品の主な仕入先及び販売先（得意先）
- (4) 品目等別の売上構成
- (5) 必要に応じ、確定申告書とともに税務署に提出した事業概況説明書写を収集する。

三 収益及び経費に関するもの

営業調査表（様式第 16 号の 1 から第 16 号の 4）の各項目を記載するために必要とする次の書面又は簿冊の写を収集する。

- (1) 直近 3 か年の事業年度の確定申告書（控）写。税務署受付印のあるものとする。
- (2) 直近 3 か年の事業年度の損益計算書写及び貸借対照表写
- (3) 直近 1 年の事業年度の総勘定元帳写、固定資産台帳写。特に必要と認める場合は直近 3 か年とする。
- (4) 直近 1 年の事業年度の次の帳簿写。特に必要と認める場合は直近 3 か年とする。

(立竹木)

第 103 条 立竹木の補償額の算定は、第 91 条で作成した資料を基に当該立竹木の移植の可否及び適否について検討し、行うものとする。

## 第 7 章 営業その他の調査

### 第 1 節 調 査

(営業その他の調査)

第 104 条 営業その他の調査とは、営業、居住者等及び動産に関する調査をいう。

(営業に関する調査)

第 105 条 法人が営業主体である場合の営業に関する調査は、補償額の算定に必要となる次の各号に掲げる事項について行うものとする。

一 営業主体に関するもの

- (1) 法人の名称、所在地、代表者の氏名及び設立年月日
- (2) 移転等の対象となる事業所等の名称、所在地、責任者の氏名及び開設年月日
- (3) 資本金の額
- (4) 法人の組織（支店等及び子会社）
- (5) 移転等の対象となる事業所等の従業員数及び平均賃金
- (6) 移転等の対象となる事業所等の敷地及び建物の所有関係

二 業務内容に関するもの

- (1) 業種
- (2) 移転等の対象となる事業所等の製造、加工又は販売等の主な品目
- (3) 原材料、製品又は商品の主な仕入先及び販売先（得意先）
- (4) 品目等別の売上構成
- (5) 必要に応じ、確定申告書とともに税務署に提出した事業概況説明書写を収集する。

三 収益及び経費に関するもの

営業調査表（様式第 16 号の 1 から第 16 号の 4）の各項目を記載するために必要とする次の書面又は簿冊の写を収集する。

- (1) 直近 3 か年の事業年度の確定申告書（控）写。税務署受付印のあるものとする。
- (2) 直近 3 か年の事業年度の損益計算書写及び貸借対照表写
- (3) 直近 1 年の事業年度の総勘定元帳写、固定資産台帳写。特に必要と認める場合は直近 3 か年とする。
- (4) 直近 1 年の事業年度の次の帳簿写。特に必要と認める場合は直近 3 か年とする。

- イ 正規の簿記の場合  
売上帳、仕入帳、仕訳帳、得意先元帳、現金出納帳及び預金出納帳
- ロ 簡易簿記の場合  
現金出納帳、売掛帳、買掛帳及び経費帳

- 四 その他補償額の算定に必要となるもの
- 2 個人が営業主体である場合の営業に関する調査は、前項に準じて行うものとする。
- 3 仮営業所に関する調査を指示されたときは、次の各号による調査を行うものとし、調査の結果、仮営業所として適当なものが存しないと認めるときは、その旨を監督員に報告するものとする。
  - 一 仮営業所設置場所の存在状況並びに賃料及び一時金の水準
  - 二 仮営業所用建物の存在状況並びに賃料及び一時金の水準
  - 三 仮設組立建物等の資材のリースに関する資料
- 4 前3項の調査に当たっては、別記4 営業調査算定要領により行うものとする。

**(居住者等に関する調査)**

- 第 104 条** 居住者等に関する調査は、世帯ごとに次の各号に掲げる事項について行うものとする。
- 一 氏名及び住所（建物番号及び室番号）
  - 二 居住者の家族構成（氏名及び生年月日）
  - 三 住居の占有面積及び使用の状況
  - 四 居住者が当該建物の所有者でない場合には、貸主の氏名等、住所等、賃料その他の契約条件、契約期間、入居期間及び定期借家契約である場合にはその期間
  - 五 その他必要と認められる事項
- 2 居住以外の目的で建物を借用している者に対しては、前各号に掲げる事項に準じて調査するものとする。
- 3 前2項の調査は、賃貸借契約書、住民票等により行うものとする。

**(動産に関する調査)**

- 第 105 条** 動産に関する調査は、世帯ごとに次の各号に掲げる事項について行うものとする。
- 一 所有者の氏名等、住所等（建物番号及び室番号）
  - 二 動産の所在地
  - 三 住居又は店舗等の占有面積及び収容状況。ピアノ、美術品、金庫等で特別な取扱いを必要とするものについては、個別に調査する。
  - 四 一般動産については、品目、形状、寸法、容量及び重量
  - 五 その他必要と認める事項

第2節 調査書の作成

(調査書の作成)

- イ 正規の簿記の場合  
売上帳、仕入帳、仕訳帳、得意先元帳、現金出納帳及び預金出納帳
- ロ 簡易簿記の場合  
現金出納帳、売掛帳、買掛帳及び経費帳

- 四 その他補償額の算定に必要となるもの
- 2 個人が営業主体である場合の営業に関する調査は、前項に準じて行うものとする。
- 3 仮営業所に関する調査を指示されたときは、次の各号による調査を行うものとし、調査の結果、仮営業所として適当なものが存しないと認めるときは、その旨を監督員に報告するものとする。
  - 一 仮営業所設置場所の存在状況並びに賃料及び一時金の水準
  - 二 仮営業所用建物の存在状況並びに賃料及び一時金の水準
  - 三 仮設組立建物等の資材のリースに関する資料
- 4 前3項の調査に当たっては、別記4 営業調査算定要領により行うものとする。

**(居住者等に関する調査)**

- 第 106 条** 居住者等に関する調査は、世帯ごとに次の各号に掲げる事項について行うものとする。
- 一 氏名及び住所（建物番号及び室番号）
  - 二 居住者の家族構成（氏名及び生年月日）
  - 三 住居の占有面積及び使用の状況
  - 四 居住者が当該建物の所有者でない場合には、貸主の氏名等、住所等、賃料その他の契約条件、契約期間、入居期間及び定期借家契約である場合にはその期間
  - 五 その他必要と認められる事項
- 2 居住以外の目的で建物を借用している者に対しては、前各号に掲げる事項に準じて調査するものとする。
- 3 前2項の調査は、賃貸借契約書、住民票等により行うものとする。

**(動産に関する調査)**

- 第 107 条** 動産に関する調査は、世帯ごとに次の各号に掲げる事項について行うものとする。
- 一 所有者の氏名等、住所等（建物番号及び室番号）
  - 二 動産の所在地
  - 三 住居又は店舗等の占有面積及び収容状況。ピアノ、美術品、金庫等で特別な取扱いを必要とするものについては、個別に調査する。
  - 四 一般動産については、品目、形状、寸法、容量及び重量
  - 五 その他必要と認める事項

第2節 調査書の作成

(調査書の作成)

**第 106 条** 前 3 条の調査に係る調査書は、次に掲げる調査表に所定の事項を記載することにより作成するものとする。

- 一 営業調査表（様式第 16 号の 1 から第 16 号の 4）
- 二 居住者調査表（様式第 17 号の 1、第 17 号の 2）
- 三 動産調査表（様式第 18 号）

### 第 3 節 算 定

#### （補償額の算定）

**第 107 条** 営業に関する補償額の算定は、監督員から営業補償の方法につき指示を受けるほか、建物及び工作物の移転料の算定業務が当該請負契約の対象とされていないときは、これらの移転工法の教示を得た上で、行うものとする。

- 2 前項の場合において、仮営業所設置費用を算定するときは、仮営業所の設置方法について監督員の指示を受けるものとする。
- 3 動産移転料の算定は、前条で作成した調査書を基に行うものとする。この場合において、美術品等の特殊な動産で、専門業者でなければ移転料の算定が困難と認められるものについては、専門業者の見積を徴するものとする。

## 第 8 章 消費税等調査

#### （消費税等に関する調査等）

**第 108 条** 消費税等に関する調査等とは、土地等の権利者等の補償額の算定に当たり消費税法（昭和 63 年法律第 108 号）及び地方税法（昭和 25 年法律第 226 号）に規定する消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の額の補償額への加算の要否又は消費税等相当額の補償の要否の調査及び判定等を行うことをいう。ただし、権利者が国の機関、地方公共団体、消費税法別表第三に掲げる法人又は消費税法第 2 条第 7 号に定める人格のない社団等であるときは、適用しないものとする。

#### （調査）

**第 109 条** 土地等の権利者等が消費税法第 2 条第 4 号に規定する事業者であるときの調査は、次に掲げる資料のうち消費税等の額又は消費税等相当額の補償の要否を判定等するために必要な資料を収集することにより行うものとする。

- 一 前年又は前事業年度の「消費税及び地方消費税確定申告書（控）」

**第 108 条** 前 3 条の調査に係る調査書は、次に掲げる調査表に所定の事項を記載することにより作成するものとする。

- 一 営業調査表（様式第 16 号の 1 から第 16 号の 4）
- 二 居住者調査表（様式第 17 号の 1、第 17 号の 2）
- 三 動産調査表（様式第 18 号）

### 第 3 節 算 定

#### （補償額の算定）

**第 109 条** 営業に関する補償額の算定は、監督員から営業補償の方法につき指示を受けるほか、建物及び工作物の移転料の算定業務が当該請負契約の対象とされていないときは、これらの移転工法の教示を得た上で、行うものとする。

- 2 前項の場合において、仮営業所設置費用を算定するときは、仮営業所の設置方法について監督員の指示を受けるものとする。
- 3 動産移転料の算定は、前条で作成した調査書を基に行うものとする。この場合において、美術品等の特殊な動産で、専門業者でなければ移転料の算定が困難と認められるものについては、専門業者の見積を徴するものとする。

## 第 8 章 消費税等調査

#### （消費税等に関する調査等）

**第 110 条** 消費税等に関する調査等とは、土地等の権利者等の補償額の算定に当たり消費税法（昭和 63 年法律第 108 号）及び地方税法（昭和 25 年法律第 226 号）に規定する消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の額の補償額への加算の要否又は消費税等相当額の補償の要否の調査及び判定等を行うことをいう。ただし、権利者が国の機関、地方公共団体、消費税法別表第三に掲げる法人又は消費税法第 2 条第 7 号に定める人格のない社団等であるときは、適用しないものとする。

#### （調査）

**第 111 条** 土地等の権利者等が消費税法第 2 条第 4 号に規定する事業者であるときの調査は、次に掲げる資料のうち消費税等の額又は消費税等相当額の補償の要否を判定等するために必要な資料を収集することにより行うものとする。

- 一 前年又は前事業年度の「消費税及び地方消費税確定申告書（控）」

- 二 基準期間に対応する「消費税及び地方消費税確定申告書（控）」
- 三 基準期間に対応する「所得税又は法人税確定申告書（控）」
- 四 消費税簡易課税制度選択届出書
- 五 消費税簡易課税制度選択不適用届出書
- 六 消費税課税事業者選択届出書
- 七 消費税課税事業者選択不適用届出書
- 八 消費税課税事業者届出書
- 九 消費税の納税義務者でなくなった旨の届出書
- 十 法人設立届出書
- 十一 個人事業の開廃業等届出書
- 十二 消費税の新設法人に該当する旨の届出書
- 十三 消費税課税事業者届出書（特定期間用）
- 十四 特定期間の給与等支払額に係る書類（支払明細書（控）、源泉徴収簿等）
- 十五 特定新規設立法人に該当する旨の届出書
- 十六 その他の資料

2 受注者は、前項に掲げる資料が存しない等の理由により必要な資料の調査ができないときは、速やかに、監督員に報告し、指示を受けるものとする。

**（補償の要否の判定等）**

**第 110 条** 消費税等に関する調査書は、第 109 条の調査結果を基に作成するものとする。

2 調査書は、消費税等相当額補償の要否判定フロー（「公共事業の施行に伴う損失の補償等に関する消費税及び地方消費税の取扱いについて」（平成 26 年 3 月 12 日中央用地対策連絡協議会事務局長通知）別添 ー 5 参考）により、補償の要否を判定（課税売上割合の算定を含む。）するものとし、消費税等調査表（様式第 19 号）を用いて、作成するものとする。この場合において、消費税等調査表によることが不相当又は困難と認めたときは、当該調査表に代えて判定理由等を記載した調査表を作成するものとする。

## 第 9 章 予 備 調 査

### 第 1 節 調 査

**（予備調査）**

**第 111 条** 予備調査とは、工場、店舗、営業所、ドライブイン、ゴルフ練習所等で大規模なもの（以下「工場等」という。）の敷地が取得等の対象となる場合で、従前の機能を残地において回復させることの検討

- 二 基準期間に対応する「消費税及び地方消費税確定申告書（控）」
- 三 基準期間に対応する「所得税又は法人税確定申告書（控）」
- 四 消費税簡易課税制度選択届出書
- 五 消費税簡易課税制度選択不適用届出書
- 六 消費税課税事業者選択届出書
- 七 消費税課税事業者選択不適用届出書
- 八 消費税課税事業者届出書
- 九 消費税の納税義務者でなくなった旨の届出書
- 十 法人設立届出書
- 十一 個人事業の開廃業等届出書
- 十二 消費税の新設法人に該当する旨の届出書
- 十三 消費税課税事業者届出書（特定期間用）
- 十四 特定期間の給与等支払額に係る書類（支払明細書（控）、源泉徴収簿等）
- 十五 特定新規設立法人に該当する旨の届出書
- 十六 その他の資料

2 受注者は、前項に掲げる資料が存しない等の理由により必要な資料の調査ができないときは、速やかに、監督員に報告し、指示を受けるものとする。

**（補償の要否の判定等）**

**第 112 条** 消費税等に関する調査書は、第 111 条の調査結果を基に作成するものとする。

2 調査書は、消費税等相当額補償の要否判定フロー（「公共事業の施行に伴う損失の補償等に関する消費税及び地方消費税の取扱いについて」（平成 26 年 3 月 12 日中央用地対策連絡協議会事務局長通知）別添 ー 5 参考）により、補償の要否を判定（課税売上割合の算定を含む。）するものとし、消費税等調査表（様式第 19 号）を用いて、作成するものとする。この場合において、消費税等調査表によることが不相当又は困難と認めたときは、当該調査表に代えて判定理由等を記載した調査表を作成するものとする。

## 第 9 章 予 備 調 査

### 第 1 節 調 査

**（予備調査）**

**第 113 条** 予備調査とは、工場、店舗、営業所、ドライブイン、ゴルフ練習所等で大規模なもの（以下「工場等」という。）の敷地が取得等の対象となる場合で、従前の機能を残地において回復させることの検討



が必要であると認められるもの等について、建物等の調査に先立ち当該工場等の企業内容、使用実態、土地の取得等に伴う建物等の影響の範囲及び想定される概略の移転計画（レイアウト）案の作成に必要な事項の調査を行うことをいう。

#### （企業内容等の調査）

第 112 条 予備調査に係る工場等の企業内容等の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。

- 一 名称、所在地及び代表者名
- 二 業種及び製造、加工又は販売等の主な品目
- 三 所有者又は占有者の組織
- 四 他に工場等を有している場合には、他工場等と当該工場等との関係
- 五 財務状況
- 六 原材料、製品又は商品の主な仕入先又は販売先（得意先）
- 七 製品等の製造、加工又は販売等の工程（図式化したもの）
- 八 その他移転計画案の検討に必要なと認める事項

#### （敷地使用実態の調査）

第 113 条 予備調査に係る工場等の敷地の使用実態の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。

- 一 敷地面積及び形状、土地の取得等の範囲及び面積、残地の面積及び形状
- 二 用途地域等の公法上の規制
- 三 各建物の位置、構造、階数、建築面積、延べ床面積、建築年月及び用途（使用実態）
- 四 敷地内の使用状況等
  - (1) 屋外に設置されている機械設備、生産設備及び附帯工作物のうち特に必要と認めるものの位置、形状、寸法、容量等
  - (2) 駐車場の位置及び収容可能台数
  - (3) 原材料、製品等の置場の位置、形状及び寸法並びに品目及び数量
  - (4) 工場立地法（昭和 34 年法律第 24 号）に基づく緑地の位置及び面積
- 五 前条第 7 号の製品等の製造、加工又は販売等の工程と建物等の配置との関係
- 六 その他移転計画案の検討に必要なと認める事項
- 七 敷地内の使用状況の概要が把握できる写真の撮影

#### （建物調査）

第 114 条 予備調査に係る建物の調査は、前 2 条の調査結果を基に土地等の取得等の対象となる範囲に存する建物及び従前の機能を回復するために関連移転の検討の対象とする建物について、第 70 条から第 72 条に準ずる方法により行うものとする。この場合における構造概要、立面、建築設備等の調査は、概算による推定再建築費の積算が可能な程度に行うものとする。

- 2 前項の関連移転の検討の対象とする建物を定めるにあたっては、監督員の指示を受けるものとする。
- 3 写真の撮影は、建物の概要を把握できるよう行うものとする。

が必要であると認められるもの等について、建物等の調査に先立ち当該工場等の企業内容、使用実態、土地の取得等に伴う建物等の影響の範囲及び想定される概略の移転計画（レイアウト）案の作成に必要な事項の調査を行うことをいう。

#### （企業内容等の調査）

第 114 条 予備調査に係る工場等の企業内容等の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。

- 一 名称、所在地及び代表者名
- 二 業種及び製造、加工又は販売等の主な品目
- 三 所有者又は占有者の組織
- 四 他に工場等を有している場合には、他工場等と当該工場等との関係
- 五 財務状況
- 六 原材料、製品又は商品の主な仕入先又は販売先（得意先）
- 七 製品等の製造、加工又は販売等の工程（図式化したもの）
- 八 その他移転計画案の検討に必要なと認める事項

#### （敷地使用実態の調査）

第 115 条 予備調査に係る工場等の敷地の使用実態の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。

- 一 敷地面積及び形状、土地の取得等の範囲及び面積、残地の面積及び形状
- 二 用途地域等の公法上の規制
- 三 各建物の位置、構造、階数、建築面積、延べ床面積、建築年月及び用途（使用実態）
- 四 敷地内の使用状況等
  - (1) 屋外に設置されている機械設備、生産設備及び附帯工作物のうち特に必要と認めるものの位置、形状、寸法、容量等
  - (2) 駐車場の位置及び収容可能台数
  - (3) 原材料、製品等の置場の位置、形状及び寸法並びに品目及び数量
  - (4) 工場立地法（昭和 34 年法律第 24 号）に基づく緑地の位置及び面積
- 五 前条第 7 号の製品等の製造、加工又は販売等の工程と建物等の配置との関係
- 六 その他移転計画案の検討に必要なと認める事項
- 七 敷地内の使用状況の概要が把握できる写真の撮影

#### （建物調査）

第 116 条 予備調査に係る建物の調査は、前 2 条の調査結果を基に土地等の取得等の対象となる範囲に存する建物及び従前の機能を回復するために関連移転の検討の対象とする建物について、第 72 条から第 74 条までに準ずる方法により行うものとする。この場合における構造概要、立面、建築設備等の調査は、概算による推定再建築費の積算が可能な程度に行うものとする。

- 2 前項の関連移転の検討の対象とする建物を定めるにあたっては、監督員の指示を受けるものとする。
- 3 写真の撮影は、建物の概要を把握できるよう行うものとする。

(機械設備等調査)

第 115 条 予備調査に係る機械設備、生産設備及び附帯工作物の調査は、前条に準じて行うものとする。  
2 写真の撮影は、主たる機械設備等の概要を把握できるように行うものとする。

第 2 節 調査書等の作成

(企業概要書)

第 116 条 企業内容等の調査書は、第 112 条の調査結果を基に企業概要書(様式第 20 号の 1)を用いて、作成するものとする。

(配置図)

第 117 条 予備調査に係る工場等の配置図は、当該工場等の敷地のうち予備調査の対象とした範囲について、第 113 条の調査結果を基に次の各号により作成するものとする。ただし、当該工場等の敷地が広大な場合で敷地全体の配置図等が権利者から提供されたときは、これを使用することができる。

- 一 建物、屋外の主たる機械設備及び生産設備、原材料置場、駐車場、通路、緑地等の位置(又は配置)
- 二 製品等の製造、加工又は販売等の工程
- 三 縮尺は、500 分の 1 又は 1,000 分の 1

(建物、機械設備等の図面作成)

第 118 条 予備調査に係る工場等の建物及び機械設備等の図面は、概算による推定再建築費等の積算が可能な程度の平面図及び立面図等を必要最小限度作成するものとする。

(移転計画案の作成)

第 119 条 予備調査に係る工場等の移転計画案は、第 112 条から第 115 条の調査結果を基に、次の各号に掲げる内容で 2 又は 3 案を作成するものとする。この場合において、残地が建物等の移転先地として基準細則第 15 第 1 項(四)アからウまでの要件に該当するか否かの検討を行うものとする。

- 一 製品等の製造、加工又は販売等の工程の変更計画
- 二 建物、機械設備等の移転計画
- 三 照応建物に係る建物の構造、規模、階数等の概要
- 四 建物、機械設備等の移転工程表
- 五 移転計画図(縮尺 500 分の 1 又は 1,000 分の 1)
- 六 移転工法(計画)案検討概要書(様式第 20 号の 2)
- 七 移転工法(計画)各案の比較表(様式第 20 号の 3)

2 前項の検討にあたり、照応建物の推定建築費は第 118 条に定める図面のほか、次の各号に掲げるものを作成し、積算するものとする。

- 一 照応建物についての計画概要表(様式第 15 号の 1、第 15 号の 2)

(機械設備等調査)

第 117 条 予備調査に係る機械設備、生産設備及び附帯工作物の調査は、前条に準じて行うものとする。  
2 写真の撮影は、主たる機械設備等の概要を把握できるように行うものとする。

第 2 節 調査書等の作成

(企業概要書)

第 118 条 企業内容等の調査書は、第 114 条の調査結果を基に企業概要書(様式第 20 号の 1)を用いて、作成するものとする。

(配置図)

第 119 条 予備調査に係る工場等の配置図は、当該工場等の敷地のうち予備調査の対象とした範囲について、第 115 条の調査結果を基に次の各号により作成するものとする。ただし、当該工場等の敷地が広大な場合で敷地全体の配置図等が権利者から提供されたときは、これを使用することができる。

- 一 建物、屋外の主たる機械設備及び生産設備、原材料置場、駐車場、通路、緑地等の位置(又は配置)
- 二 製品等の製造、加工又は販売等の工程
- 三 縮尺は、500 分の 1 又は 1,000 分の 1

(建物、機械設備等の図面作成)

第 120 条 予備調査に係る工場等の建物及び機械設備等の図面は、概算による推定再建築費等の積算が可能な程度の平面図及び立面図等を必要最小限度作成するものとする。

(移転計画案の作成)

第 121 条 予備調査に係る工場等の移転計画案は、第 114 条から第 117 条までの調査結果を基に、次の各号に掲げる内容で 2 又は 3 案を作成するものとする。この場合において、残地が建物等の移転先地として基準細則第 15 第 1 項(四)アからウまでの要件に該当するか否かの検討を行うものとする。

- 一 製品等の製造、加工又は販売等の工程の変更計画
- 二 建物、機械設備等の移転計画
- 三 照応建物に係る建物の構造、規模、階数等の概要
- 四 建物、機械設備等の移転工程表
- 五 移転計画図(縮尺 500 分の 1 又は 1,000 分の 1)
- 六 移転工法(計画)案検討概要書(様式第 20 号の 2)
- 七 移転工法(計画)各案の比較表(様式第 20 号の 3)

2 前項の検討にあたり、照応建物の推定建築費は第 120 条に定める図面のほか、次の各号に掲げるものを作成し、積算するものとする。

- 一 照応建物についての計画概要表(様式第 15 号の 1、第 15 号の 2)

- 二 面積比較表（様式第 15 号の 4）
- 三 平面（間取り）の各案についての計画概要比較表（様式第 15 号の 3）

### 第 3 節 算 定

#### （補償概算額の算定）

第 120 条 前条で作成する移転計画案（2 又は 3 案）の補償概算額の算定は、第 116 条から第 119 条までで作成した調査書及び図面を基に行うものとする。

## 第 10 章 移転工法案の検討

### 第 1 節 調 査

#### （移転工法案の検討）

第 121 条 移転工法案の検討とは、工場等の敷地の一部が取得等の対象となる場合において、当該敷地に存在する建物等の機能の全部又は一部を残地において回復するための通常妥当とする移転方法等の案を検討することをいう。

#### （企業内容等の調査）

第 122 条 工場等の企業内容等の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。ただし、第 116 条の調査書の貸与を受けた場合には、その調査書を基に調査を行うものとする。

- 一 名称、所在地及び代表者名
- 二 業種及び製造、加工又は販売等の品目
- 三 所有者又は占有者の組織
- 四 他に工場等を有している場合には、他工場等と当該工場との関係
- 五 財務状況
- 六 原材料、製品又は商品の主な仕入先又は販売先（得意先）
- 七 製品等の製造、加工又は販売等の工程（図式化したもの）
- 八 その他移転工法案の検討に必要と認める事項

#### （敷地使用実態の調査）

第 123 条 工場等の敷地の使用実態の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。ただし、第 113 条の調査結果資料の貸与を受けた場合には、その資料を基に調査を行うものとする。

- 二 面積比較表（様式第 15 号の 4）
- 三 平面（間取り）の各案についての計画概要比較表（様式第 15 号の 3）

### 第 3 節 算 定

#### （補償概算額の算定）

第 122 条 前条で作成する移転計画案（2 又は 3 案）の補償概算額の算定は、第 118 条から第 121 条までで作成した調査書及び図面を基に行うものとする。

## 第 10 章 移転工法案の検討

### 第 1 節 調 査

#### （移転工法案の検討）

第 123 条 移転工法案の検討とは、工場等の敷地の一部が取得等の対象となる場合において、当該敷地に存在する建物等の機能の全部又は一部を残地において回復するための通常妥当とする移転方法等の案を検討することをいう。

#### （企業内容等の調査）

第 124 条 工場等の企業内容等の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。ただし、第 118 条の調査書の貸与を受けた場合には、その調査書を基に調査を行うものとする。

- 一 名称、所在地及び代表者名
- 二 業種及び製造、加工又は販売等の品目
- 三 所有者又は占有者の組織
- 四 他に工場等を有している場合には、他工場等と当該工場との関係
- 五 財務状況
- 六 原材料、製品又は商品の主な仕入先又は販売先（得意先）
- 七 製品等の製造、加工又は販売等の工程（図式化したもの）
- 八 その他移転工法案の検討に必要と認める事項

#### （敷地使用実態の調査）

第 125 条 工場等の敷地の使用実態の調査は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。ただし、第 115 条の調査結果資料の貸与を受けた場合には、その資料を基に調査を行うものとする。

- 一 敷地面積及び形状、土地の取得等の範囲及び面積、残地の面積及び形状
- 二 用途地域等の公法上の規制
- 三 各建物の位置、構造、階数、建築面積、延べ床面積、建築年月及び用途（使用実態）
- 四 敷地内の使用状況等
  - (1) 屋外に設置されている機械設備、生産設備及び附帯工作物のうち、特に必要と認められるものの位置、形状、寸法、容量等
  - (2) 駐車場の位置及び収容可能台数
  - (3) 原材料、製品等の置場の位置、形状及び寸法並びに品目及び数量
  - (4) 工場立地法（昭和 34 年法律第 24 号）に基づく緑地の位置及び面積
- 五 前条第 7 号の製品等の製造、加工又は販売等の工程と建物等の配置との関係
- 六 その他移転工法案の検討に必要と認める事項
- 七 敷地内の使用状況の概要が把握できる写真の撮影

## 第 2 節 調査書等の作成

### （企業概要書）

第 124 条 企業内容等の調査書は、第 122 条の調査結果を基に企業概要書（様式第 20 号の 1）を用いて、作成するものとする。

### （移転工法案の作成）

第 125 条 工場等の移転工法案は、第 68 条から第 76 条まで、第 78 条、第 122 条及び第 123 条の調査結果を基に、次の各号に掲げる内容で 2 又は 3 案を作成するものとする。

この場合において、残地が建物等の移転先地として基準細則第 15 第 1 項（四）アからウまでの要件に該当するか否かの検討を行うものとする。

- 一 製品等の製造、加工又は販売等の工程の変更計画
- 二 建物（残地内での関連移転又は残地外の土地への移転を必要とするものを含む。）、機械設備等の移転計画
- 三 照応建物に係る建物の構造、規模、階数等の概要
- 四 建物、機械設備等の移転工程表
- 五 移転計画図（縮尺 500 分の 1 又は 1,000 分の 1）
- 六 移転工法（計画）案検討概要書（様式第 20 号の 2）
- 七 移転工法（計画）各案の比較表（様式第 20 号の 3）

2 前項の検討にあたり照応建物の推定建築費は、概算額によるものとし、次の各号に掲げるもののほか、概算額の積算に必要な平面図及び立面図を必要最小限度作成するものとする。なお、監督員から、当該照応建物の詳細な設計による推定再建築費の積算を指示された場合は、これに必要な図面を作成し、積算するものとする。

- 一 敷地面積及び形状、土地の取得等の範囲及び面積、残地の面積及び形状
- 二 用途地域等の公法上の規制
- 三 各建物の位置、構造、階数、建築面積、延べ床面積、建築年月及び用途（使用実態）
- 四 敷地内の使用状況等
  - (1) 屋外に設置されている機械設備、生産設備及び附帯工作物のうち、特に必要と認められるものの位置、形状、寸法、容量等
  - (2) 駐車場の位置及び収容可能台数
  - (3) 原材料、製品等の置場の位置、形状及び寸法並びに品目及び数量
  - (4) 工場立地法（昭和 34 年法律第 24 号）に基づく緑地の位置及び面積
- 五 前条第 7 号の製品等の製造、加工又は販売等の工程と建物等の配置との関係
- 六 その他移転工法案の検討に必要と認める事項
- 七 敷地内の使用状況の概要が把握できる写真の撮影

## 第 2 節 調査書等の作成

### （企業概要書）

第 126 条 企業内容等の調査書は、第 124 条の調査結果を基に企業概要書（様式第 20 号の 1）を用いて、作成するものとする。

### （移転工法案の作成）

第 127 条 工場等の移転工法案は、第 70 条から第 78 条まで、第 80 条、第 124 条及び第 125 条の調査結果を基に、次の各号に掲げる内容で 2 又は 3 案を作成するものとする。

この場合において、残地が建物等の移転先地として基準細則第 15 第 1 項（四）アからウまでの要件に該当するか否かの検討を行うものとする。

- 一 製品等の製造、加工又は販売等の工程の変更計画
- 二 建物（残地内での関連移転又は残地外の土地への移転を必要とするものを含む。）、機械設備等の移転計画
- 三 照応建物に係る建物の構造、規模、階数等の概要
- 四 建物、機械設備等の移転工程表
- 五 移転計画図（縮尺 500 分の 1 又は 1,000 分の 1）
- 六 移転工法（計画）案検討概要書（様式第 20 号の 2）
- 七 移転工法（計画）各案の比較表（様式第 20 号の 3）

2 前項の検討にあたり照応建物の推定建築費は、概算額によるものとし、次の各号に掲げるもののほか、概算額の積算に必要な平面図及び立面図を必要最小限度作成するものとする。なお、監督員から、当該照応建物の詳細な設計による推定再建築費の積算を指示された場合は、これに必要な図面を作成し、積算するものとする。

- 一 照応建物についての計画概要表（様式第 15 号の 1、第 15 号の 2）
- 二 面積比較表（様式第 15 号の 4）
- 三 平面（間取り）の各案についての計画概要比較表（様式第 15 号の 3）

（補償額の比較）

第 126 条 前条の移転工法案を作成したときは、基準細則第 15 第 1 項（四）エに定める補償額の比較を行うものとする。

2 第 1 項の検討にあたり、当該請負契約に対象とされていない補償項目に係わる見積額は、監督員から教示を得るものとする。

## 第 11 章 再算定業務

（再算定業務）

第 127 条 再算定業務とは、建物等の補償額について再度算定する（再調査して算定する場合を含む。）ことをいう。

（再算定の方法）

第 128 条 建物等の補償額の再算定は、次の各号の一に該当する場合を除くほか、従前の移転工法及び補償額の算定方法により行うものとする。

- 一 補償額の算定項目、算定方法等に係る基準、基準細則又は調査積算要領等が改正されている場合には、改正後の基準等により算定する。
- 二 再調査の結果が現調査表の内容と異なる場合は、再調査の結果に基づき補償額を算定する。この場合における移転工法は、監督員の指示による。

## 第 12 章 補償説明

（補償説明）

第 129 条 補償説明とは、権利者に対し、土地の評価（残地補償を含む。）の方法、建物等の補償方針及び補償額の算定内容（以下「補償内容等」という。）の説明を行うことをいう。

- 一 照応建物についての計画概要表（様式第 15 号の 1、第 15 号の 2）
- 二 面積比較表（様式第 15 号の 4）
- 三 平面（間取り）の各案についての計画概要比較表（様式第 15 号の 3）

（補償額の比較）

第 128 条 前条の移転工法案を作成したときは、基準細則第 15 第 1 項（四）エに定める補償額の比較を行うものとする。

2 第 1 項の検討にあたり、当該請負契約に対象とされていない補償項目に係わる見積額は、監督員から教示を得るものとする。

## 第 11 章 再算定業務

（再算定業務）

第 129 条 再算定業務とは、建物等の補償額について再度算定する（再調査して算定する場合を含む。）ことをいう。

（再算定の方法）

第 130 条 建物等の補償額の再算定は、次の各号の一に該当する場合を除くほか、従前の移転工法及び補償額の算定方法により行うものとする。

- 一 補償額の算定項目、算定方法等に係る基準、基準細則又は調査積算要領等が改正されている場合には、改正後の基準等により算定する。
- 二 再調査の結果が現調査表の内容と異なる場合は、再調査の結果に基づき補償額を算定する。この場合における移転工法は、監督員の指示による。

## 第 12 章 補償説明

（補償説明）

第 131 条 補償説明とは、権利者に対し、土地の評価（残地補償を含む。）の方法、建物等の補償方針及び補償額の算定内容（以下「補償内容等」という。）の説明を行うことをいう。

(概況ヒアリング等)

第 130 条 受注者は、補償説明の実施に先立ち、監督員から当該事業の内容、取得等の対象となる土地等の概要、移転の対象となる建物等の概要、補償内容、各権利者の実情及びその他必要となる事項について説明を受けるものとする。

2 受注者は、現地踏査後に補償説明の対象となる権利者等と面接し、補償説明を行うことについての協力を依頼するものとする。

(説明資料の作成等)

第 131 条 権利者に対する説明を行うに当たっては、あらかじめ、現地踏査及び概況ヒアリング等の結果を踏まえ、次の各号に掲げる業務を行うものとし、これら業務が完了したときは、その内容等について監督員と協議するものとする。

- 一 当該区域全体及び権利者ごとの処理方針の検討
- 二 権利者ごとの補償内容等の整理
- 三 権利者に対する説明用資料の作成

(権利者に対する説明)

第 132 条 権利者に対する説明は、次の各号により行うものとする。

- 一 2名以上の者を一組として権利者と面接すること
  - 二 権利者と面接するときは、事前に連絡を取り、日時、場所その他必要な事項について了解を得ておくこと
- 2 権利者に対しては、前条において作成した説明用資料を基に補償内容等の理解が得られるよう十分な説明を行うものとする。

(記録簿の作成)

第 133 条 受注者は、権利者と面接し説明を行ったとき等は、その都度、説明の内容及び権利者の主張又は質疑の内容等を説明記録簿（様式第 21 号）に記載するものとする。

(説明後の措置)

第 134 条 受注者は、補償説明の現状及び権利者ごとの経過等を、必要に応じて、監督員に報告するものとする。

- 2 受注者は、当該権利者に係る補償内容等のすべてについて権利者の理解が得られたと判断したときは、速やかに監督員にその旨を報告するものとする。
- 3 受注者は、権利者が説明を受け付けない若しくは当該事業計画、補償内容等又はその他の事項で意見の相違等があるため理解を得ることが困難であると判断したときは、監督員にその旨を報告し、指示を受けるものとする。

(概況ヒアリング等)

第 132 条 受注者は、補償説明の実施に先立ち、監督員から当該事業の内容、取得等の対象となる土地等の概要、移転の対象となる建物等の概要、補償内容、各権利者の実情及びその他必要となる事項について説明を受けるものとする。

2 受注者は、現地踏査後に補償説明の対象となる権利者等と面接し、補償説明を行うことについての協力を依頼するものとする。

(説明資料の作成等)

第 133 条 権利者に対する説明を行うに当たっては、あらかじめ、現地踏査及び概況ヒアリング等の結果を踏まえ、次の各号に掲げる業務を行うものとし、これら業務が完了したときは、その内容等について監督員と協議するものとする。

- 一 当該区域全体及び権利者ごとの処理方針の検討
- 二 権利者ごとの補償内容等の整理
- 三 権利者に対する説明用資料の作成

(権利者に対する説明)

第 134 条 権利者に対する説明は、次の各号により行うものとする。

- 一 2名以上の者を一組として権利者と面接すること
  - 二 権利者と面接するときは、事前に連絡を取り、日時、場所その他必要な事項について了解を得ておくこと
- 2 権利者に対しては、前条において作成した説明用資料を基に補償内容等の理解が得られるよう十分な説明を行うものとする。

(記録簿の作成)

第 135 条 受注者は、権利者と面接し説明を行ったとき等は、その都度、説明の内容及び権利者の主張又は質疑の内容等を説明記録簿（様式第 21 号）に記載するものとする。

(説明後の措置)

第 136 条 受注者は、補償説明の現状及び権利者ごとの経過等を、必要に応じて、監督員に報告するものとする。

- 2 受注者は、当該権利者に係る補償内容等のすべてについて権利者の理解が得られたと判断したときは、速やかに監督員にその旨を報告するものとする。
- 3 受注者は、権利者が説明を受け付けない若しくは当該事業計画、補償内容等又はその他の事項で意見の相違等があるため理解を得ることが困難であると判断したときは、監督員にその旨を報告し、指示を受けるものとする。

## 第 13 章 事業認定申請図書等の作成

### (事業認定申請図書等の作成)

第 135 条 事業認定申請図書等の作成とは、次の各号に掲げる図書の作成等をいうものとする。

- 一 事業認定申請図書の作成
- 二 裁決申請図書の作成
- 三 明渡裁決申立図書の作成

### (事業認定申請図書の作成)

第 136 条 事業認定申請図書の作成とは、土地収用法（昭和 26 年法律第 219 号。以下この章において「法」という。）第 16 条に規定する事業の認定を受けるため、法第 18 条の規定による事業認定申請書及び添付書類等を作成することをいう。

### (事業計画の説明)

第 137 条 事業認定申請図書の作成に当たっては、当該事業認定申請に係る事業の目的、計画の概要及び申請区間等について監督員等から説明を受けるものとする。

### (現地踏査)

第 138 条 事業認定申請図書の作成に当たって行う現地踏査においては、事業認定申請に係る起業地を含む事業地の踏査を行うものとする。

### (起業地の範囲の検討)

第 139 条 起業地の範囲の検討は、事業認定申請区間に係る発注者が貸与する事業計画図を基に、本体事業、附帯事業又は関連事業ごとに行うものとする。

2 前項による事業認定申請の範囲を検討したときは、監督員と協議するものとする。

### (事業認定申請図書の作成方法)

第 140 条 事業認定申請図書は、法第 18 条並びに法施行規則（昭和 26 年建設省令第 33 号。以下この章において「規則」という。）第 2 条及び第 3 条に定めるところに従うほか、別記 5 事業認定申請図書作成要領により作成するものとする。

### (事前相談用資料の作成方法)

第 141 条 事業認定申請図書の事前相談用資料の作成は、前条の定めるところにより、法第 20 条の事業の認定の要件すべてに該当するように記載するものとする。この場合において、事前相談に必要と認める

## 第 13 章 事業認定申請図書等の作成

### (事業認定申請図書等の作成)

第 137 条 事業認定申請図書等の作成とは、次の各号に掲げる図書の作成等をいうものとする。

- 一 事業認定申請図書の作成
- 二 裁決申請図書の作成
- 三 明渡裁決申立図書の作成

### (事業認定申請図書の作成)

第 138 条 事業認定申請図書の作成とは、土地収用法（昭和 26 年法律第 219 号。以下この章において「法」という。）第 16 条に規定する事業の認定を受けるため、法第 18 条の規定による事業認定申請書及び添付書類等を作成することをいう。

### (事業計画の説明)

第 139 条 事業認定申請図書の作成に当たっては、当該事業認定申請に係る事業の目的、計画の概要及び申請区間等について監督員等から説明を受けるものとする。

### (現地踏査)

第 140 条 事業認定申請図書の作成に当たって行う現地踏査においては、事業認定申請に係る起業地を含む事業地の踏査を行うものとする。

### (起業地の範囲の検討)

第 141 条 起業地の範囲の検討は、事業認定申請区間に係る発注者が貸与する事業計画図を基に、本体事業、附帯事業又は関連事業ごとに行うものとする。

2 前項による事業認定申請の範囲を検討したときは、監督員と協議するものとする。

### (事業認定申請図書の作成方法)

第 142 条 事業認定申請図書は、法第 18 条並びに法施行規則（昭和 26 年建設省令第 33 号。以下この章において「規則」という。）第 2 条及び第 3 条に定めるところに従うほか、別記 5 事業認定申請図書作成要領により作成するものとする。

### (事前相談用資料の作成方法)

第 143 条 事業認定申請図書の事前相談用資料の作成は、前条の定めるところにより、法第 20 条の事業の認定の要件すべてに該当するように記載するものとする。この場合において、事前相談に必要と認める

参考資料をあわせて作成するものとする。

(事前相談用資料の提出)

第 142 条 受注者は、前条の事前相談用資料の作成が完了したときは、速やかに監督員に当該資料を提出するものとする。

(本申請図書の作成)

第 143 条 事業認定機関との事前相談の完了に伴う本申請図書の作成は、監督員の指示により事前相談用資料を修正し、又は補足資料を整備して行うものとする。

(裁決申請図書の作成)

第 144 条 裁決申請図書の作成とは、法第 40 条に規定する裁決申請図書及びこれに関連する参考資料を作成することをいう。

(現地踏査)

第 145 条 裁決申請図書の作成に当たっては、あらかじめ、裁決申請に係る現地の踏査を行うものとする。

(裁決申請図書の作成方法)

第 146 条 裁決申請図書は、法第 40 条並びに規則第 16 条及び第 17 条に定めるところに従うほか、監督員が別途指示する作成要領等により作成するものとする。

(明渡裁決申立図書の作成方法)

第 147 条 明渡裁決申立図書の作成とは、法第 47 条の 3 に規定する明渡裁決申立図書及びこれに関連する参考資料を作成することをいう。

(現地踏査)

第 148 条 明渡裁決申請図書の作成に当たっては、あらかじめ、明渡裁決の申立てに係る現地の踏査を行うものとする。

(明渡裁決申立図書の作成方法)

第 149 条 明渡裁決申立図書は、法第 47 条の 3 並びに規則第 17 条の 6 及び第 17 条の 7 に定めるところに従うほか、監督員が別途指示する作成要領等により作成するものとする。

第 14 章 地盤変動影響調査等

参考資料をあわせて作成するものとする。

(事前相談用資料の提出)

第 144 条 受注者は、前条の事前相談用資料の作成が完了したときは、速やかに監督員に当該資料を提出するものとする。

(本申請図書の作成)

第 145 条 事業認定機関との事前相談の完了に伴う本申請図書の作成は、監督員の指示により事前相談用資料を修正し、又は補足資料を整備して行うものとする。

(裁決申請図書の作成)

第 146 条 裁決申請図書の作成とは、法第 40 条に規定する裁決申請図書及びこれに関連する参考資料を作成することをいう。

(現地踏査)

第 147 条 裁決申請図書の作成に当たっては、あらかじめ、裁決申請に係る現地の踏査を行うものとする。

(裁決申請図書の作成方法)

第 148 条 裁決申請図書は、法第 40 条並びに規則第 16 条及び第 17 条に定めるところに従うほか、監督員が別途指示する作成要領等により作成するものとする。

(明渡裁決申立図書の作成方法)

第 149 条 明渡裁決申立図書の作成とは、法第 47 条の 3 に規定する明渡裁決申立図書及びこれに関連する参考資料を作成することをいう。

(現地踏査)

第 150 条 明渡裁決申請図書の作成に当たっては、あらかじめ、明渡裁決の申立てに係る現地の踏査を行うものとする。

(明渡裁決申立図書の作成方法)

第 151 条 明渡裁決申立図書は、法第 47 条の 3 並びに規則第 17 条の 6 及び第 17 条の 7 に定めるところに従うほか、監督員が別途指示する作成要領等により作成するものとする。

第 14 章 地盤変動影響調査等



## 第1節 調査

### (地盤変動影響調査)

第150条 地盤変動影響調査とは、公共事業に係る工事の施行に起因する地盤変動により建物その他の工作物（以下この章において「建物等」という。）に損害等が生ずるおそれがあると認められる場合に、工事の着手に先立ち又は工事の施行中に行う建物等の配置及び現況の調査（以下「事前調査」という。）並びに工事の施行に起因する地盤変動により損害等が生じた建物等の状況調査（以下「事後調査」という。）をいう。

### (調査)

第151条 地盤変動影響調査は、地盤変動影響調査算定要領（平成24年3月30日付け国土用第51号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知）により行うものとする。

2 前項により難しい場合は、監督員の指示により必要な調査を行うものとする。

### (費用負担の要否の検討)

第152条 損害等をてん補するために必要な費用負担の要否の検討は、発注者が事前調査及び事後調査の結果を比較検討する等をして、損傷箇所の変化又は損傷の発生が事業に係る工事の施行によるものと認められるものについて、建物等の全部又は一部が損傷し、又は損壊することにより、建物等が通常有する機能を損なっているものであるかの検討を行うものとする。

2 前項の検討結果については、速やかに監督員に報告するものとする。

## 第2節 算定

### (費用負担額の算定)

第153条 損害等が生じた建物等の費用負担額の算定は、地盤変動影響調査算定要領により行うものとする。

2 前項により難しい場合は、監督員の指示により費用負担額の算定を行うものとする。

## 第3節 費用負担の説明

### (費用負担の説明)

第154条 費用負担の説明とは、公共事業に係る工事の施行に起因する地盤変動により生じた建物等の損害等に係る費用負担額の算定内容等（以下「費用負担の内容等」という。）の説明を行うことをいう。

### (概況ヒアリング等)

## 第1節 調査

### (地盤変動影響調査)

第152条 地盤変動影響調査とは、公共事業に係る工事の施行に起因する地盤変動により建物その他の工作物（以下この章において「建物等」という。）に損害等が生ずるおそれがあると認められる場合に、工事の着手に先立ち又は工事の施行中に行う建物等の配置及び現況の調査（以下「事前調査」という。）並びに工事の施行に起因する地盤変動により損害等が生じた建物等の状況調査（以下「事後調査」という。）をいう。

### (調査)

第153条 地盤変動影響調査は、地盤変動影響調査算定要領（平成24年3月30日付け国土用第51号国土交通省土地・建設産業局地価調査課長通知）により行うものとする。

2 前項により難しい場合は、監督員の指示により必要な調査を行うものとする。

### (費用負担の要否の検討)

第154条 損害等をてん補するために必要な費用負担の要否の検討は、発注者が事前調査及び事後調査の結果を比較検討する等をして、損傷箇所の変化又は損傷の発生が事業に係る工事の施行によるものと認められるものについて、建物等の全部又は一部が損傷し、又は損壊することにより、建物等が通常有する機能を損なっているものであるかの検討を行うものとする。

2 前項の検討結果については、速やかに監督員に報告するものとする。

## 第2節 算定

### (費用負担額の算定)

第155条 損害等が生じた建物等の費用負担額の算定は、地盤変動影響調査算定要領により行うものとする。

2 前項により難しい場合は、監督員の指示により費用負担額の算定を行うものとする。

## 第3節 費用負担の説明

### (費用負担の説明)

第156条 費用負担の説明とは、公共事業に係る工事の施行に起因する地盤変動により生じた建物等の損害等に係る費用負担額の算定内容等（以下「費用負担の内容等」という。）の説明を行うことをいう。

### (概況ヒアリング等)

**第 155 条** 受注者は、費用負担の説明の実施に先立ち、監督員から当該工事の内容、被害発生の時期、費用負担の対象となる建物等の概要、損傷の状況、費用負担の内容等、各権利者の実情及びその他必要となる事項について説明を受けるものとする。

2 受注者は、現地踏査後に費用負担の説明の対象となる権利者等と面接し、費用負担の説明を行うことについての協力を依頼するものとする。

**(説明資料の作成等)**

**第 156 条** 権利者に対する説明を行うに当たっては、あらかじめ、現地踏査及び概況ヒアリング等の結果を踏まえ、次の各号に掲げる業務を行うものとし、これら業務が完了したときは、その内容等について監督員と協議するものとする。

- 一 説明対象建物等及び権利者ごとの処理方針の検討
- 二 権利者ごとの費用負担の内容等の確認
- 三 権利者に対する説明用資料の作成

**(権利者に対する説明)**

**第 157 条** 権利者に対する説明は、次の各号により行うものとする。

- 一 2名以上の者を一組として権利者と面接すること。
  - 二 権利者と面接するときは、事前に連絡を取り、日時、場所その他必要な事項について了解を得ておくこと。
- 2 権利者に対しては、前条において作成した説明用資料を基に費用負担の内容等の理解が得られるよう十分な説明を行うものとする。

**(記録簿の作成)**

**第 158 条** 受注者は、権利者と面接し説明を行ったとき等は、その都度、説明の内容及び権利者の主張又は質疑の内容等を説明記録簿（様式第 21 号）に記載するものとする。

**(説明後の措置)**

**第 159 条** 受注者は、費用負担の説明の現状及び権利者ごとの経過等を、必要に応じて、監督員に報告するものとする。

- 2 受注者は、当該権利者に係る費用負担の内容等のすべてについて権利者の理解が得られたと判断したときは、速やかに、監督員にその旨を報告するものとする。
- 3 受注者は、権利者が説明を受け付けない又は費用負担の内容等若しくはその他事項で意見の相違等があるため理解を得ることが困難であると判断したときは、監督員にその旨を報告し、指示を受けるものとする。

**第 157 条** 受注者は、費用負担の説明の実施に先立ち、監督員から当該工事の内容、被害発生の時期、費用負担の対象となる建物等の概要、損傷の状況、費用負担の内容等、各権利者の実情及びその他必要となる事項について説明を受けるものとする。

2 受注者は、現地踏査後に費用負担の説明の対象となる権利者等と面接し、費用負担の説明を行うことについての協力を依頼するものとする。

**(説明資料の作成等)**

**第 158 条** 権利者に対する説明を行うに当たっては、あらかじめ、現地踏査及び概況ヒアリング等の結果を踏まえ、次の各号に掲げる業務を行うものとし、これら業務が完了したときは、その内容等について監督員と協議するものとする。

- 一 説明対象建物等及び権利者ごとの処理方針の検討
- 二 権利者ごとの費用負担の内容等の確認
- 三 権利者に対する説明用資料の作成

**(権利者に対する説明)**

**第 159 条** 権利者に対する説明は、次の各号により行うものとする。

- 一 2名以上の者を一組として権利者と面接すること。
  - 二 権利者と面接するときは、事前に連絡を取り、日時、場所その他必要な事項について了解を得ておくこと。
- 2 権利者に対しては、前条において作成した説明用資料を基に費用負担の内容等の理解が得られるよう十分な説明を行うものとする。

**(記録簿の作成)**

**第 160 条** 受注者は、権利者と面接し説明を行ったとき等は、その都度、説明の内容及び権利者の主張又は質疑の内容等を説明記録簿（様式第 21 号）に記載するものとする。

**(説明後の措置)**

**第 161 条** 受注者は、費用負担の説明の現状及び権利者ごとの経過等を、必要に応じて、監督員に報告するものとする。

- 2 受注者は、当該権利者に係る費用負担の内容等のすべてについて権利者の理解が得られたと判断したときは、速やかに、監督員にその旨を報告するものとする。
- 3 受注者は、権利者が説明を受け付けない又は費用負担の内容等若しくはその他事項で意見の相違等があるため理解を得ることが困難であると判断したときは、監督員にその旨を報告し、指示を受けるものとする。

## 第 15 章 写真台帳の作成

### (写真台帳の作成)

第 160 条 受注者は、第 6 章、第 7 章、第 9 章、第 10 章及び第 14 章に定める調査等と併せて、次の各号に定めるところにより、写真を撮影し、所有者ごとに写真台帳を作成するものとする。

- 一 第 6 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、調査区域の概況が容易にわかるものとする。
  - 二 第 6 章及び第 7 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、建物の全景及び建物の主要な構造部分並びに建物が存在する周囲の状況並びに建物以外の土地に定着する主要な工作物が容易にわかるものとする。
  - 三 第 7 章に定める調査のうち、動産に関する調査と併せて行う写真の撮影は、第 105 条第三号及び第四号の動産の種類等が容易にわかるものとする。
  - 四 第 7 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、営業商品の陳列状況、生産の稼働状況、原材料及び生産品等が容易にわかるものとする。
  - 五 第 9 章及び第 10 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、監督員の指示により前各号に準じて行うものとする。
  - 六 第 14 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、地盤変動影響調査算定要領により行うものとする。
- 2 写真台帳には、写真を撮影した付近の建物配置図等の写しを添付し、建物等の番号を付記するとともに、撮影の位置及び方向並びに写真番号を記入するものとする。
- 3 写真台帳の作成に当たっては、撮影年月日等の記載事項及び撮影対象物の位置その他必要と認められる事項を明記し、写真撮影に従事した者の記名押印をするものとする。

## 第 16 章 土地調書及び物件調書の作成等

### (土地調書等の作成)

第 161 条 受注者は、第 3 章、第 4 章、第 6 章及び第 7 章に定める業務の成果物により、土地調書（様式第 22 号）及び物件調書（様式第 23 号）を作成するものとする。

(成果物一覧は省略)

(様式第 1 号から様式第 6 号 省略)

## 第 15 章 写真台帳の作成

### (写真台帳の作成)

第 162 条 受注者は、第 6 章、第 7 章、第 9 章、第 10 章及び第 14 章に定める調査等と併せて、次の各号に定めるところにより、写真を撮影し、所有者ごとに写真台帳を作成するものとする。

- 一 第 6 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、調査区域の概況が容易にわかるものとする。
  - 二 第 6 章及び第 7 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、建物の全景及び建物の主要な構造部分並びに建物が存在する周囲の状況並びに建物以外の土地に定着する主要な工作物が容易にわかるものとする。
  - 三 第 7 章に定める調査のうち、動産に関する調査と併せて行う写真の撮影は、第 107 条第三号及び第四号の動産の種類等が容易にわかるものとする。
  - 四 第 7 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、営業商品の陳列状況、生産の稼働状況、原材料及び生産品等が容易にわかるものとする。
  - 五 第 9 章及び第 10 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、監督員の指示により前各号に準じて行うものとする。
  - 六 第 14 章に定める調査等と併せて行う写真の撮影は、地盤変動影響調査算定要領により行うものとする。
- 2 写真台帳には、写真を撮影した付近の建物配置図等の写しを添付し、建物等の番号を付記するとともに、撮影の位置及び方向並びに写真番号を記入するものとする。
- 3 写真台帳の作成に当たっては、撮影年月日等の記載事項及び撮影対象物の位置その他必要と認められる事項を明記し、写真撮影に従事した者の記名押印をするものとする。

## 第 16 章 土地調書及び物件調書の作成等

### (土地調書等の作成)

第 163 条 受注者は、第 3 章、第 4 章、第 6 章及び第 7 章に定める業務の成果物により、土地調書（様式第 22 号）及び物件調書（様式第 23 号）を作成するものとする。

(成果物一覧は省略)

(様式第 1 号から様式第 6 号 省略)

様式第7号の1 (第47条関係)

土地の登記記録調査表 (一覧)

様式第7号の2 (第47条関係)

土地調査表

様式第8号の1 (第47条関係)

建物の登記記録調査表 (一覧)

様式第8号の2 (第47条関係)

建物の登記記録調査表

様式第9号の1 (第47条関係)

権利者調査表 (土地)

様式第9号の2 (第47条関係)

権利者調査表 (建物)

様式第10号の1 (第47条関係)

墓地管理者調査表

様式第10号の2 (第47条関係)

墓地使用 (祭祀) 者調査表

様式第7号の1 (第49条関係)

土地の登記記録調査表 (一覧)

様式第7号の2 (第49条関係)

土地調査表

様式第8号の1 (第49条関係)

建物の登記記録調査表 (一覧)

様式第8号の2 (第49条関係)

建物の登記記録調査表

様式第9号の1 (第49条関係)

権利者調査表 (土地)

様式第9号の2 (第49条関係)

権利者調査表 (建物)

様式第10号の1 (第49条関係)

墓地管理者調査表

様式第10号の2 (第49条関係)

墓地使用 (祭祀) 者調査表

様式第 11 号 (第 54 条関係)

土地境界立会確認書

様式第 13 号 (第 88 条関係)

墳墓調査表

様式第 14 号の 1 (第 87 条, 第 88 条, 第 89 条関係)

立竹木調査表

様式第 14 号の 2 (第 87 条, 第 88 条, 第 89 条関係)

立竹木補償額算定書

様式第 15 号の 1 (第 95 条, 第 119 条, 第 125 条関係)

計画概要表 (検討資料)

式第 15 号の 2 (第 95 条, 第 119 条, 第 125 条関係)

計画概要表

様式第 15 号の 3 (第 119 条, 第 125 条関係)

計画概要比較表

様式第 15 号の 4 (第 95 条, 第 119 条, 第 125 条関係)

面積比較表

様式第 11 号 (第 56 条関係)

土地境界立会確認書

様式第 13 号 (第 90 条関係)

墳墓調査表

様式第 14 号の 1 (第 89 条, 第 90 条, 第 91 条関係)

立竹木調査表

様式第 14 号の 2 (第 89 条, 第 90 条, 第 91 条関係)

立竹木補償額算定書

様式第 15 号の 1 (第 97 条, 第 121 条, 第 127 条関係)

計画概要表 (検討資料)

式第 15 号の 2 (第 97 条, 第 121 条, 第 127 条関係)

計画概要表

様式第 15 号の 3 (第 121 条, 第 127 条関係)

計画概要比較表

様式第 15 号の 4 (第 97 条, 第 121 条, 第 127 条関係)

面積比較表

様式第 16 号の 1 (第 103 条、第 106 条関係)

営業調査総括表 (1)

様式第 16 号の 2 (第 103 条、第 106 条関係)

営業調査総括表 (2)

様式第 16 号の 3 (第 103 条、第 106 条関係)

従業員調査表

様式第 16 号の 4 (第 103 条、第 106 条関係)

仕入先調査表

様式第 17 号の 1 (第 106 条関係)

居住者調査表

様式第 17 号の 2 (第 106 条関係)

居住者調査表

様式第 18 号 (第 106 条関係)

動産調査表

様式第 16 号の 1 (第 105 条、第 108 条関係)

営業調査総括表 (1)

様式第 16 号の 2 (第 105 条、第 108 条関係)

営業調査総括表 (2)

様式第 16 号の 3 (第 105 条、第 108 条関係)

従業員調査表

様式第 16 号の 4 (第 105 条、第 108 条関係)

仕入先調査表

様式第 17 号の 1 (第 108 条関係)

居住者調査表

様式第 17 号の 2 (第 108 条関係)

居住者調査表

様式第 18 号 (第 108 条関係)

動産調査表

様式第 19 号 (第 110 条関係)

消費 税 等 調 査 表

=====  
様式第 20 号の 1 (第 116 条、第 124 条関係)

企 業 概 要 書

=====  
様式第 20 号の 2 (第 119 条、第 125 条関係)

移 転 工 法 ( 計 画 ) 案 検 討 概 要 書

=====  
様式第 20 号の 3 (第 119 条、第 125 条関係)

移 転 工 法 ( 計 画 ) 各 案 の 比 較 表

=====  
様式第 21 号 (第 133 条関係)

説 明 記 録 簿

=====  
様式第 22 号 (第 161 条関係)

土 地 調 査 書

=====  
様式第 23 号 (第 161 条関係)

物 件 調 査 書

=====  
(様式第 24 号から様式第 28 号まで省略)

様式第 19 号 (第 112 条関係)

消費 税 等 調 査 表

=====  
様式第 20 号の 1 (第 118 条、第 126 条関係)

企 業 概 要 書

=====  
様式第 20 号の 2 (第 121 条、第 127 条関係)

移 転 工 法 ( 計 画 ) 案 検 討 概 要 書

=====  
様式第 20 号の 3 (第 121 条、第 127 条関係)

移 転 工 法 ( 計 画 ) 各 案 の 比 較 表

=====  
様式第 21 号 (第 135 条関係)

説 明 記 録 簿

=====  
様式第 22 号 (第 163 条関係)

土 地 調 査 書

=====  
様式第 23 号 (第 163 条関係)

物 件 調 査 書

=====  
(様式第 24 号から様式第 28 号まで省略)

(別記 省略)

(別記 省略)